

京都市内遺跡試掘調査概報

平成4年度

京 都 市 文 化 観 光 局

序

四季折々に変化する趣のある景色と貴重な文化財が調和している京都は、日本の古都として毎年多くの入洛者を迎えます。私達が馴染み親しんだこのような風景は、平安建都以来の人々の営みの積重ねから生まれてきたものでした。

このような文化遺産のほかに、土に埋もれ、姿を隠してしまった文化財が数多くあることをもっと知って頂きたいと思います。また、これらを愛護し、将来へ正確に伝えて行くことが今を生きるわたしたち市民の課題であろうと思います。

このようなことから、埋蔵文化財の発掘調査を通して平安建都1200年の歴史のなかで失われ、姿を消した京都の文化遺産を現代に蘇らせ、ここから新しい文化を創造する糧と方法を学ぶことが、課題に答える方法の一つではないかと考えています。

本書は、京都市が平成4年度に文化庁の国庫補助を得て実施しました埋蔵文化財発掘調査の報告書であり、調査にあたって、ご支援とご協力を頂いた市民の皆様から心から感謝いたしますとともに、本書が文化財保護に役立てられることを期待いたします。

平成5年3月

京都市文化観光局

例 言

- 1 本書は、京都市が文化庁国庫補助を得て実施した平成4年度の京都市内遺跡試掘調査概要報告である。なお、本書は平成4年1月から12月まで実施した報告である。
- 2 試掘調査を実施した主な内容については、一覧表に掲載している。
- 3 本文の執筆分担は、文末に記した。
- 4 本書に使用した地図は、本市計画局発行の都市計画基本図（縮尺1/2,500）を複製して調整したものである。なお、図版に使用した地図の縮尺は、以下のとおりである。
図版3 8,000分の1 図版4～19 10,000分の1
- 5 本書で使用した土壌色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帳』に準じた。
- 6 本書作成・調査実施にあたっては、京都市埋蔵文化財調査センターが担当し、下記の方々の協力を得ました。

京都府教育委員会 京都市文化財保護課（財）京都市埋蔵文化財研究所

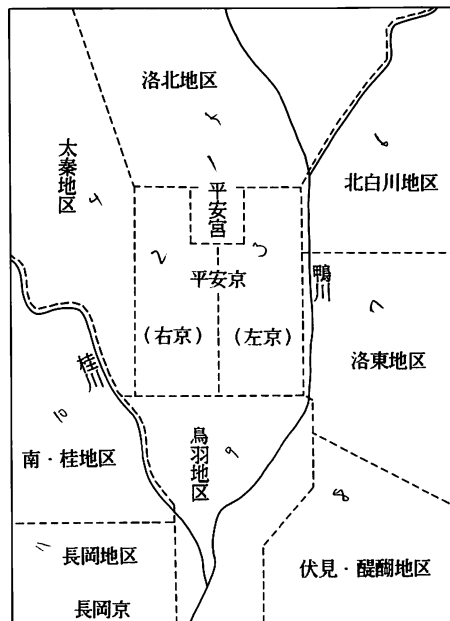


図1 調査地区割図

目 次

I 試掘調査の概要 …………… 1	VI 伏見城跡……………28
1 調査の概要…………… 1	1 調査経過……………28
2 各地区の調査概要…………… 1	2 遺構・遺物……………28
II 平安京右京八条二坊十二・十三町跡 …… 4	3 ま と め……………29
1 調査経過…………… 4	VII 中久世遺跡 ……………30
2 遺 構…………… 5	1 調査経過……………30
3 遺 物……………11	2 遺構・遺物……………30
4 ま と め……………13	3 ま と め……………33
III 平安京左京八条三坊三町跡 ……16	VIII 福西28号墳 ……………34
1 調査経過……………16	1 調査経過……………34
2 遺構・遺物……………17	2 遺構・遺物……………34
3 ま と め……………18	3 ま と め……………35
IV 平安京左京八条三坊六・十一町跡 ……20	IX 長岡京左京四条三坊跡……………36
1 調査経過……………20	1 調査経過……………36
2 遺構・遺物……………21	2 遺構・遺物……………36
3 ま と め……………23	3 ま と め……………37
V 法勝寺跡……………24	X 長岡京左京四条四坊跡……………38
1 調査経過……………24	1 調査経過……………38
2 遺構・遺物……………25	2 遺構・遺物……………38
3 ま と め……………26	3 ま と め……………40

図 版 目 次

- 図版 1 平安京図葉分割図
- 図版 2 平安宮域概念図
- 図版 3 平安宮
- 図版 4 右京北辺・一・二・三条 三・四坊
- 図版 5 右京北辺・一・二・三条 一・二坊
- 図版 6 左京北辺・一・二・三条 一・二坊
- 図版 7 左京北辺・一・二・三条 三・四坊
- 図版 8 右京 四・五・六・七条 三・四坊
- 図版 9 右京 四・五・六・七条 一・二坊
- 図版10 左京 四・五・六・七条 一・二坊
- 図版11 左京 四・五・六・七条 三・四坊
- 図版12 右京 八・九条 三・四坊 左京 八・九条 一・二坊
- 図版13 右京 八・九条 一・二坊 左京 八・九条 三・四坊
- 図版14 史跡名勝嵐山・北野遺跡・一乗寺向畑町遺跡・広隆寺旧境内・仁和寺院家跡
栗栖野瓦窯跡・六波羅政庁跡・珍皇寺旧境内
- 図版15 植物園北遺跡・白河街区跡
- 図版16 伏見城跡
- 図版17 鳥羽離宮跡・下鳥羽遺跡
- 図版18 上久世遺跡・中久世遺跡・史跡随心院境内・深草遺跡・福西古墳群
- 図版19 長岡京跡

挿 図 目 次

図1	調査地区割図……………例言	図20	調査地位置図……………24
図2	平安京条坊図……………4	図21	調査地平面図……………25
図3	調査地位置図……………4	図22	1トレンチ西壁土層図 ……26
図4	調査区内のトレンチ位置図……………5	図23	平瓦・軒平瓦拓影・実測図……………26
図5	調査平面略図……………6	図24	調査地位置図……………28
図6	調査平面略図……………7	図25	トレンチ配置図……………28
図7	第2トレンチで検出した埴輪を 伴う古墳の平面図……………7	図26	遺構実測図……………29
図8	各トレンチの標準土層図……………8	図27	土器実測図……………29
図9	第2トレンチ南壁土層図 ……9	図28	調査地位置図……………30
図10	出土遺物実測図……………12	図29	遺構実測図……………31
図11	平安京条坊図……………16	図30	1トレンチ北壁土層図……………32
図12	調査地位置図……………16	図31	土器実測図……………32
図13	1トレンチ遺構実測図 ……17	図32	調査地位置図……………34
図14	軒丸瓦拓影・実測図……………18	図33	遺構位置図……………34
図15	土器実測図……………18	図34	石室実測図……………35
図16	平安京条坊図……………20	図35	調査地位置図……………36
図17	調査地位置図……………20	図36	土器実測図……………37
図18	2トレンチ東壁土層図……………21	図37	軒平瓦拓影・実測図……………37
図19	土器実測図……………22	図38	調査地位置図……………38
		図39	遺構実測図……………39

表 目 次

表1	平成3・4年の試掘調査内訳表……………3
表2	試掘調査一覧表……………41～45

写 真 目 次

写真1	埴輪を伴う古墳が見つかった第2トレンチ東端全景(西から)……………	14
写真2	埴輪を伴う古墳が見つかった第2トレンチ東端全景(北から)……………	14
写真3	検出遺構(古墳)(西北から)……………	15
写真4	古墳西側周濠部(北から)……………	15
写真5	埴輪検出状況(北から)……………	15
写真6	古墳周濠部の土層断面写真(南から)……………	15
写真7	1トレンチ全景(東から)……………	19
写真8	3トレンチ全景(南西から)……………	19
写真9	5トレンチ東端部(南東から)……………	19
写真10	調査地遠景(南東から)……………	19
写真11	1トレンチ全景(西から)……………	23
写真12	5トレンチ掘削中(南から)……………	23
写真13	1トレンチ全景(南から)……………	27
写真14	2トレンチ全景(北から)……………	27
写真15	3トレンチ全景(北東から)……………	27
写真16	4トレンチ全景(南西から)……………	27
写真17	1トレンチ全景(南から)……………	33
写真18	溝1全景(北から)……………	33
写真19	石室検出状況(北から)……………	35
写真20	トレンチ全景(南から)……………	37
写真21	竪穴住居部分(南西から)……………	40
写真22	柱穴群部分(西から)……………	40

I 試掘調査の概要

1. 調査の概要

京都市では、一般の埋蔵文化財包蔵地内で実施される一定規模以上の土木工事や、平安宮跡・鳥羽離宮跡などの重点遺跡内の小規模工事などに先だって、遺跡のあり方や残存状況を把握するための事前試掘調査を、昭和54年度から本格的に実施指導してきている。

本報告は、平成4年1月から12月までに実施した試掘調査結果を報告するものである。

2. 各地区の調査概要

平安宮地区

この地区は、豊臣秀吉築城による聚楽第と重複している部分があり、平安宮跡の調査でありながら聚楽第の調査を兼ねることがある。今回の調査では、このような例が多く、特にNo.15では泥土堆積を確認して聚楽第「堀」の一部を確認したが、「堀」の規模やあり方は不明である。

平安宮跡の調査は、中務省推定地で行い中務省関係の柱跡を検出したので、発掘調査を実施した。

平安京右京地区

今回は、吉祥院地域での調査例が多く桂川の氾濫と思われる砂礫層が見られ、大規模な氾濫が繰返されていることがうかがえた。

平安京の条坊制については、大路や小路の一部を確認している。特に朱雀大路西側溝の一部を確認したことは成果であった。また、築地の宅地内側溝を確認したNo.24は発掘調査を実施した。

No.6の調査では、古墳の周濠を検出し、濠内埋土から円筒埴輪片が大量に出土し、京内に埋もれた古墳が存在することを確認できたことは驚きであった。なお、申請者の協力を得て現状保存されることとなった。

平安京左京地区

この地区は、歴史的にも開発が継続的にまた大規模に行われてきた地区で、特に室町時代の遺物が大量に、そして良好に遺存していて住民の活発な生計をうかがわせている。

今回は、京都駅周辺の調査例が多く、No.8では豊臣秀吉築造の御土居の濠跡の一部を検出し、泥土層の堆積を認めた。また、駅周辺は開発が激しい地域と思われていたが、分厚い盛土層の下に平安時代後期の遺物包含層や木製方形井戸跡を検出し、遺存度は良好であった。

太秦地区

今回は、顕著な成果は見られなかったが、No.9では臨川寺跡に関連する瓦が大量に検出され、また、古墳時代の土器も検出されて発掘調査を実施した。

洛北地区

今回の調査例では、植物園北遺跡を多く行ったが、見るべき成果はなかった。No.10の調査例では、史跡栗栖野瓦窯跡に隣接しており平安時代後期の瓦溜めを検出し、発掘調査を実施した。

北白川地区

今回の調査では、六勝寺跡を中心とする白河街区跡の調査が中心となり、各所で室町時代の包含層・溝・土壙・流路を検出し、活発な生産活動が行われていたことがわかった。No.47では、法勝寺跡に関連する東西溝と土壙を検出し現状保存を行った。

洛東地区

六波羅政庁跡1件、珍皇寺旧境内2件の調査を実施した。六波羅政庁跡では、平安時代後期の土壙1基を確認したにとどまった。他は、清水焼の作陶に関すると思われる大規模な粘土採取により、また後世の整地によってそれ以前の包含層や遺構は攪乱を受けており残存状況は良くなかった。

伏見・醍醐地区

今回の調査は、伏見城跡が中心となった。No.56では、桃山時代の土壙2基を検出し、陶磁器の良好な資料を得た。伏見城下西端付近は、砂層による盛土層が厚く、遺構の検出は困難を極めたが江戸時代から盛土が繰返し行われていることが判明した。

鳥羽地区

鳥羽離宮跡の調査は、湿地・池状堆積を示し顕著な成果はなかった。

下鳥羽遺跡では、古墳時代の竪穴住居状遺構を一部検出したが、既調査例と同様に残存状況は良くなかった。これは、当時の住居が湿地際に立地しているという地理的・自然地的条件が、保存状態に悪い影響を与えているものと考えられる。

南・桂地区

中久世遺跡では、弥生時代から奈良時代までの湿地状遺構や溝状遺構を検出した。特に、No.67では7世紀末から8世紀初頭の須恵器を出土する溝を検出したことは成果であった。

中久世遺跡の既調査例では、流路や湿地に囲まれた微高地に住居跡が点在していることが判明しているが、No.67調査での検出事例は今後の究明課題であろうと思われる。

福西古墳群では、以前は竹藪や果樹園の景観を呈していたのであるが、近年集合住宅や駐車場建設による景観変化が著しい地域で、昭和20年代の開墾による変化と共に、より古墳群の確認は困難を極めて、再開発に伴う試掘調査でしか所在が確認できないものがある。今回は、2件の調査を実施し新たに古墳を1基検出した。

長岡京地区

再開発の著しい地区である。No.72では、外環状道路の建設に伴う発掘調査で判明した川原寺跡の遺構面を検出し、寺跡を解明する良好な資料となった。そして現状保存を行った。No.73では長岡京期の柱穴や条坊制に関連する溝を検出して長岡京跡の研究に新たな資料を加えた。また、古墳時代の竪穴住居状遺構も検出して長岡京跡以前の景観復元の資料を得た。

(玉村登志夫)

表1 平成3・4年の試掘調査内訳表

(件数)

年	平安宮	右京	左京	その他	合計	発掘指導	設計変更
平成3	13	25	18	33	89	16	4
4	7	17	8	44	76	7	5

II 平安京右京八条一坊十二・十三町跡 No.6・28

1. 調査経過

試掘調査を行った場所は、京都市下京区梅小路頭町6他のJR梅小路機関区内である。

調査を行った理由は、JR二条駅構内の区画整理施行に伴って既存施設の移転が必要となり、石油供給関連施設については梅小路機関区内に移設が決定され、地下タンクや供給施設が建設されることになった。

今回は移転先が平安京跡に該当するため、事前に埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を行ったものである。

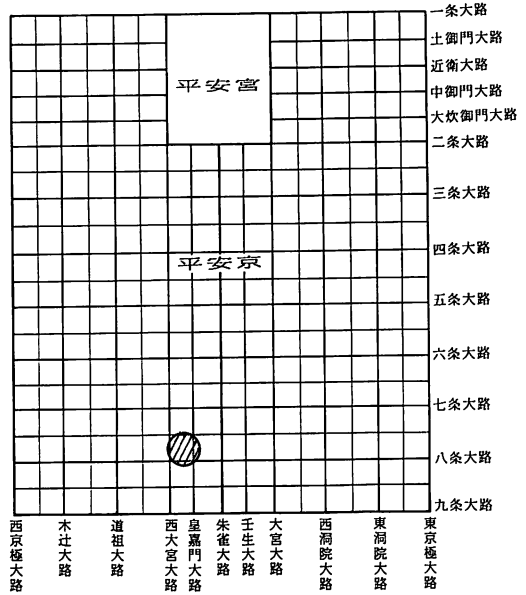


図2 平安京条坊図（調査位置）

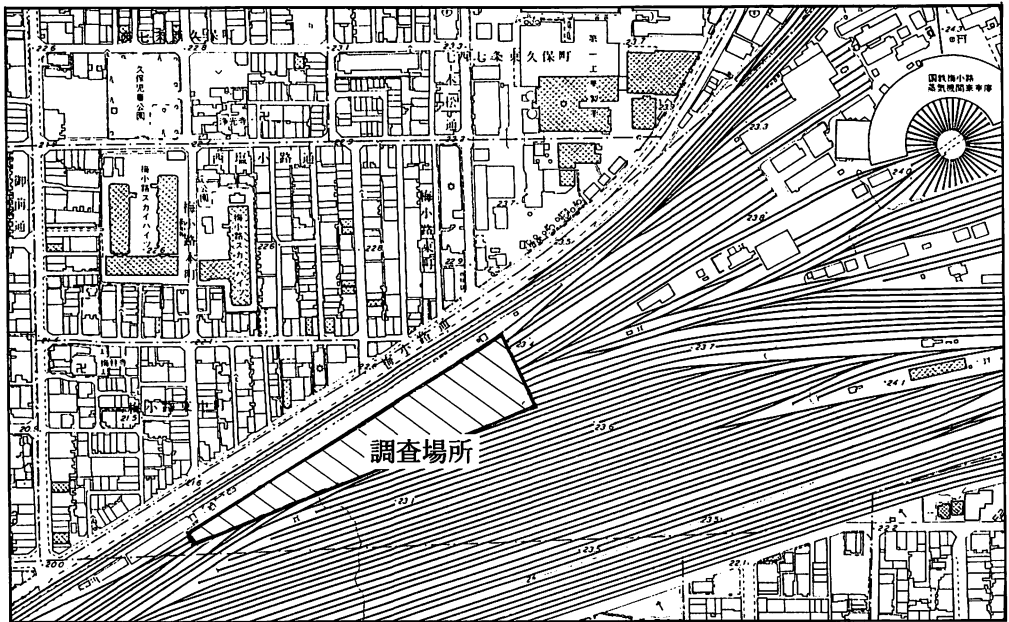


図3 調査地位位置図 (1/5,000)

調査対象地は、JR東海道線に沿った東北から西南方向の細長い旧線路敷きの土地で、南方は多数の引き込み線があり、北側には山陰線高架と梅小路通りが通る。

当該地は平安京右京八条一坊十二・十三町跡に該当し、地下タンク埋設場所や石油供給施設関連建物が予定されている場所について、当初6箇所のトレンチを設定し、条坊区画の検出を主眼とした試掘調査を実施した。

試掘調査では調査区中央付近から埴輪を伴う古墳が発見され、協議の結果、古墳推定範囲を保存区域として工事計画から除外することになり、計画変更に伴う追加の第7トレンチを新たに設定して調査し、試掘調査を完了した。

調査対象地は、西南から土地占有者別に4ブロックに分けられているため、西南端から調査区をA、B、C、Dとし、南西から東北へ1～6のトレンチを設定して機械掘削を行った。なおDブロックは工事計画がなく今回試掘調査は実施していない。

2. 遺 構

調査場所は基本的に鉄道線路敷跡地であり、地表下0.5～1mまで旧国鉄時代から引き継ぐ盛土と鉄道線路に敷くバラスが存在し、またその下層には青灰色粘土層が広範囲に存在する。これは国鉄時代以前に付近一帯が芹田であった名残とみられ、砂礫質の地山バラスの上方が直接この青灰色粘土層となっている所も多く、その付近は遺構の残存状況は脆弱であった。

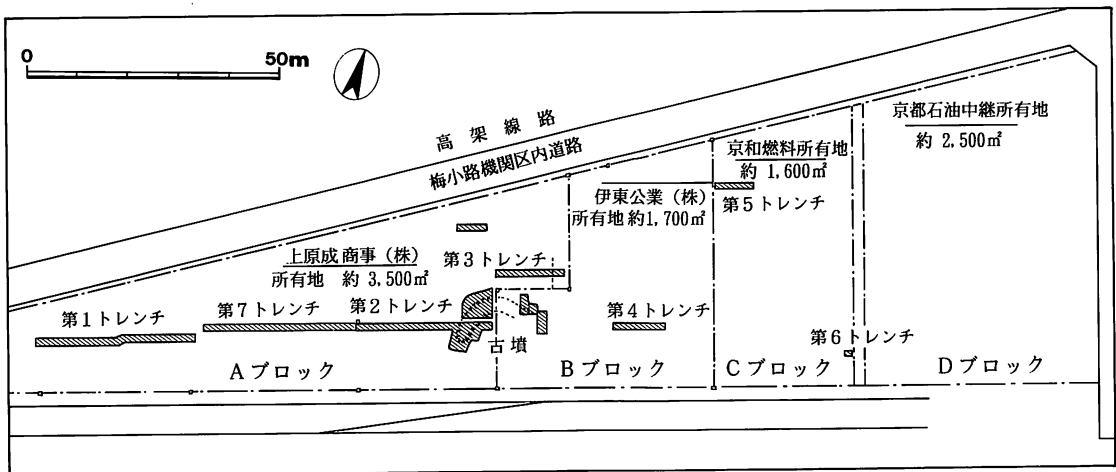


図4 調査区内のトレンチ位置図 (1/1,500)

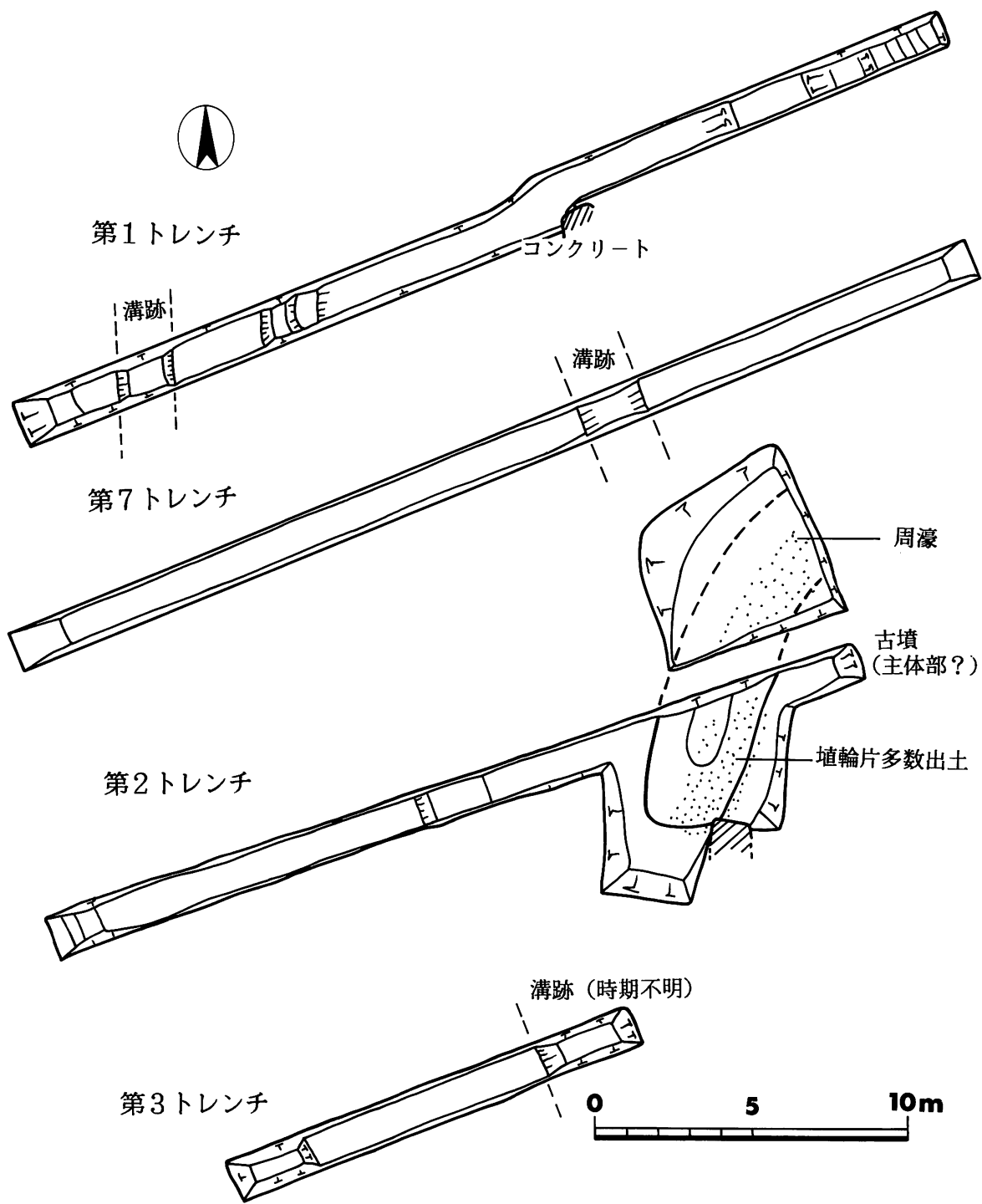


図5 調査平面略図 (第1.7.2.3トレンチ) (1/200)

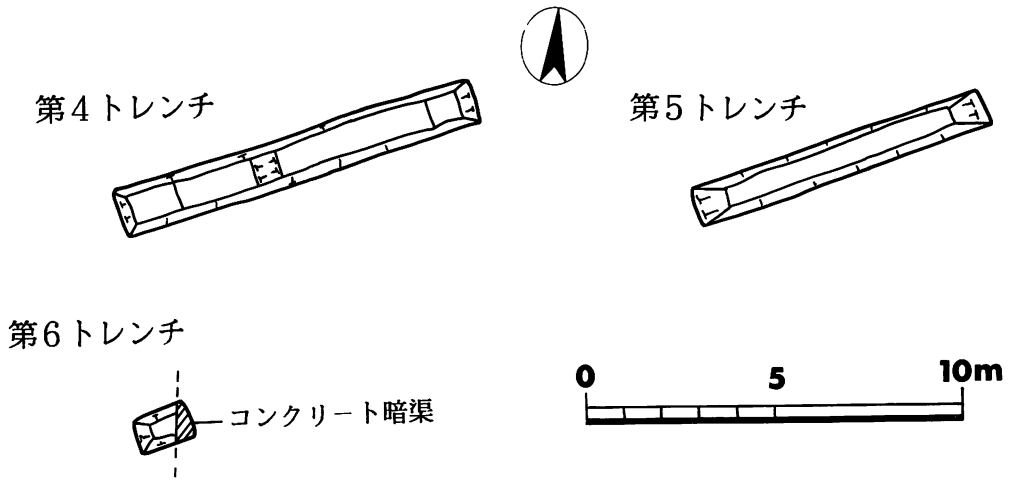


図6 調査平面略図 (第4.5.6トレンチ) (1/200)

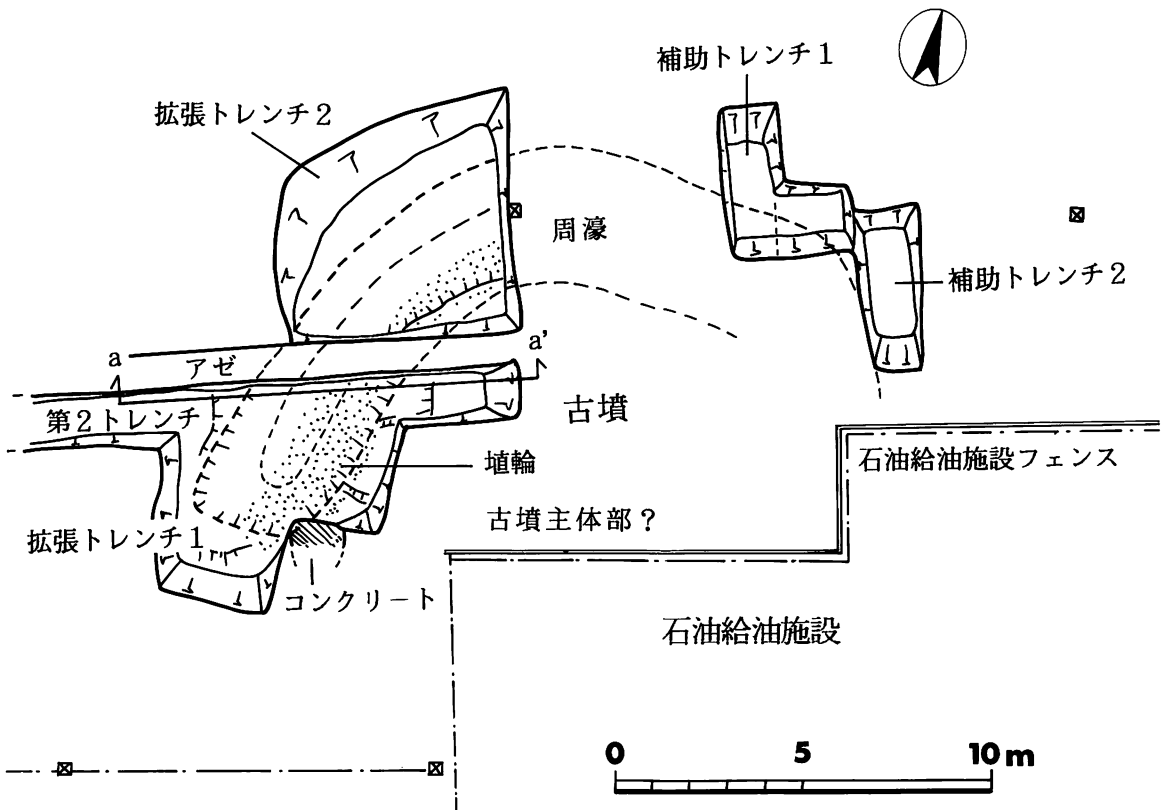
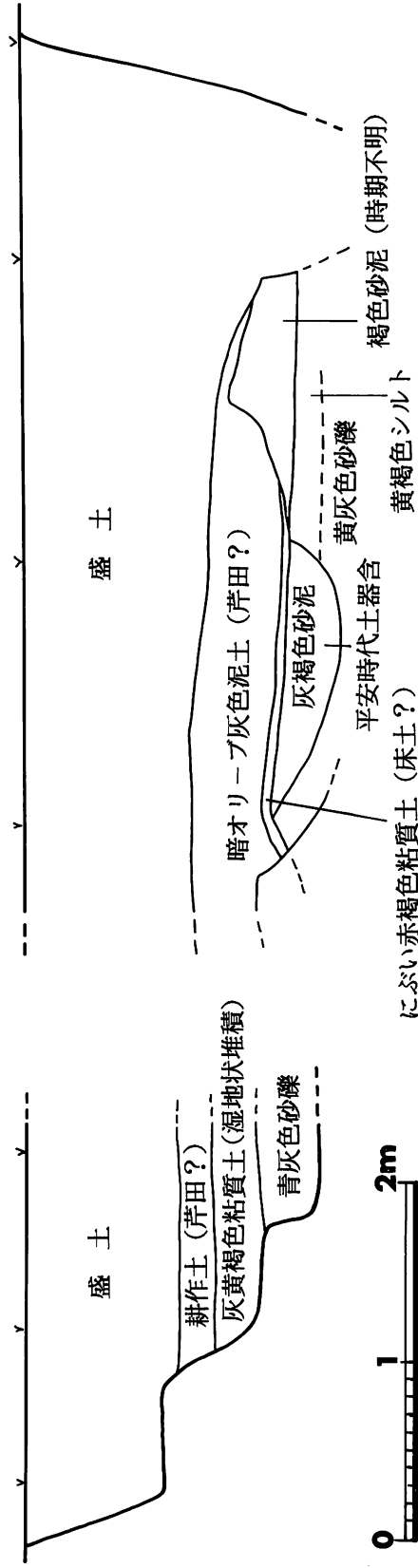


図7 第2トレンチで検出した埴輪を伴う古墳の平面図 (1/200)

第1トレンチ東・西端南壁

東←

→西



第3トレンチ東端北壁



第4トレンチ東端北壁



第5トレンチ東端北壁



第6トレンチ東端北壁



盛土

盛土

盛土

盛土

図8 各トレンチの標準土層図(第1.3.4.5.6トレンチ)

(1) Aブロック

第1トレンチ（長さ32m，幅1.5m）

地表下1m前後まで鉄道に伴う盛土で，その下層に暗オリーブ灰色粘土があり，以前は芹田であったとみられる。この層の下には褐色砂泥層及び褐色粘質土があり，さらに下層の地表下1.5m前後で黄褐色シルト及び砂礫質の地山となる。

トレンチ西端近くで地山を掘り込んだ幅約1.6m，深さ30cm程の南北溝が見つかり，中から平安時代の土器や瓦の小破片数点が見つかった。この溝跡は推定西櫛司小路の側溝に当たる可能性がある。しかしこれ以外の場所は，砂礫の地山上に湿地状の灰黄褐色の粘質土層が存在し，磨耗した瓦・須恵器・土師器・羽釜など平安時代の遺物を含むが，有力な遺構面は存在しない。

第2トレンチ（長さ27m，幅1.4m）

Aブロック東端から西方にトレンチを設定する。西方では地表下1m余りで地山となり，その上に暗褐色粘質土層が薄く存在するが，明確な遺構面や遺物は存在しない。

一方トレンチ東端から約2m手前の地表下1m弱で，砂礫の地山を掘った幅約3m，深さ90cm程の溝跡を検出し，中から円筒埴輪の破片が出土した。

改めてトレンチを南方に拡張（拡張トレンチ1）して掘削した結果，溝跡は南へは続かず途中でとぎれ，付近の砂礫の地山と同様のレベルとなることが判明した。また埴輪は溝の東肩部から斜面及び溝底に散布することを確認し，埴輪に混ざって須恵器の小破片が出土した。

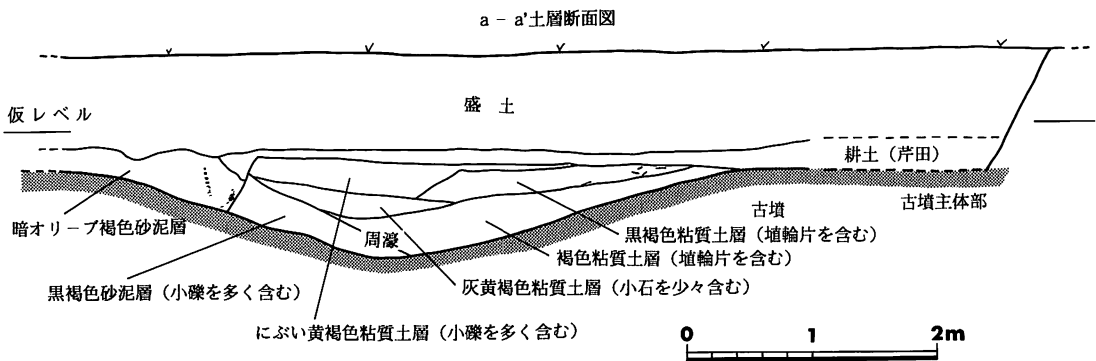


図9 第2トレンチ南壁土層図（古墳周濠部断面）（1/60）

溝は南方に続かず、埴輪の破片が北方では少なくなる傾向を示していたので、この付近にのみ埴輪が散布するものと判断し、2日目にその大半を取り上げた。

最終の3日目に溝の続きを追って北側に拡張トレンチ2を設定して掘削した結果、埴輪破片を含む溝跡は曲線を描いて北東へ続いており、この時点で古墳を取り巻く周濠の一部であると判断した。(図7参照)

さらに古墳の規模・範囲を確認するため、周濠の延長線上に補助トレンチ(1.2)を設定して掘削したところ、周濠は北東からさらに東南方向に曲がるのが判明した。

また拡張トレンチ2で検出した周濠の一部を掘り下げた結果、埴輪片が多量に包含していることが判明したことから、この時点で試掘調査段階で遺構検出するのは困難と判断し、遺物は採集せずに、遺構の仮実測と写真撮影を済ませて埋め戻した。

古墳の検出面は地表下1m弱と極めて浅く、また埴輪は据えられた状態で出土したものはなく、墳丘に据えられていたものが後世に周濠内へ転落し、埋没したものと考えられる。

第3トレンチ(長さ13.7m, 幅1.3m)

土層は第2トレンチと同様の堆積を示し、芹田と地山の間には若干の暗褐色粘質土が存在するが明確な遺構面は検出できなかった。ただしトレンチの東端では、地山を切って地表下1mから1.9mまで達する大きな溝跡(東岸は不明)を検出したが、溝内には遺物は無く時期も不明。

第7トレンチ(長さ33m, 幅1.5m)

埴輪を伴う古墳を保存するために設計変更が行われ、追加調査として第1・2トレンチをつなぐ位置にトレンチを設けた。土層は第1・2トレンチと同様で、古墳等の重要遺構は検出されず、唯一トレンチ中央付近で南北の溝跡(平安後期の土師器を若干含む)を検出した。ただしこの溝跡は、平安京条坊に該当しない。

(2) Bブロック

4トレンチ(長さ10.3m, 幅1.3m)

第Bブロック敷地内の南方中央部に東西トレンチを設ける。

盛土の下はすぐ地山で、芹田は存在しないことから、この付近は元から地山が高い所と見られる。ただ盛土直下の土層内には土師器の細片が存在するが、遺構面は確認できず後

世に削平を受けた可能性がある。

(3) Cブロック

5 トレンチ (長さ 8 m, 幅 1.5 m)

敷地の北方東西にトレンチを設ける。地表下 1.1 m 程の旧耕作土 (芹田) の下層に、時期不明の赤褐色粘質土が存在するが、その層から明確な遺構面は確認できなかった。

6 トレンチ (長さ 1.5 m, 幅 1.3 m)

地下構造物があったため掘削範囲が狭小となった。盛土直下は地山で遺構や遺物は認められなかった。

3. 遺物

各トレンチからは少量ずつ様々な遺物が出土しているが、主なものとしては第 2 トレンチから検出された古墳に伴う埴輪と須恵器がある。

(1) 埴輪 (図10—1～6 参照)

埴輪は周濠の内側肩部から底にかけて多くの破片が出土し、遺物コンテナで 2 箱分ほどある。いずれも焼成軟質の小破片ばかりで最大でも手のひら大程度の大きさしかない。

遺物検出面が堅い粘質土であったため、出土時に埴輪表面が地面と密着しているものが多く、取り上げ時にタガや刷毛目が破損するものが多かった。

埴輪は円筒埴輪で、洗浄後にバインダーで固定化を図り、タガやスカシをたよりに接合を試みたが完全に円筒形になるものではなく、また曲面から朝顔形のものを含むが、破片からは形象埴輪は確認していない。

埴輪はいずれも残存不良な小破片がほとんどで年代決定は困難であるが、タガの形状や縦ハケを主体とした調整のほか、一緒に出土した須恵器片などを含めて、推定年代を一応 6 世紀代頃のものとしておきたい。

(2) 須恵器 (図10—7 参照)

須恵器は 3 点が出土、いずれも小破片で 1 点は透かしを有する高杯脚部の一部分 (図10—7 参照) とみられ、ほかに杯身か蓋の破片とみられるものがある。

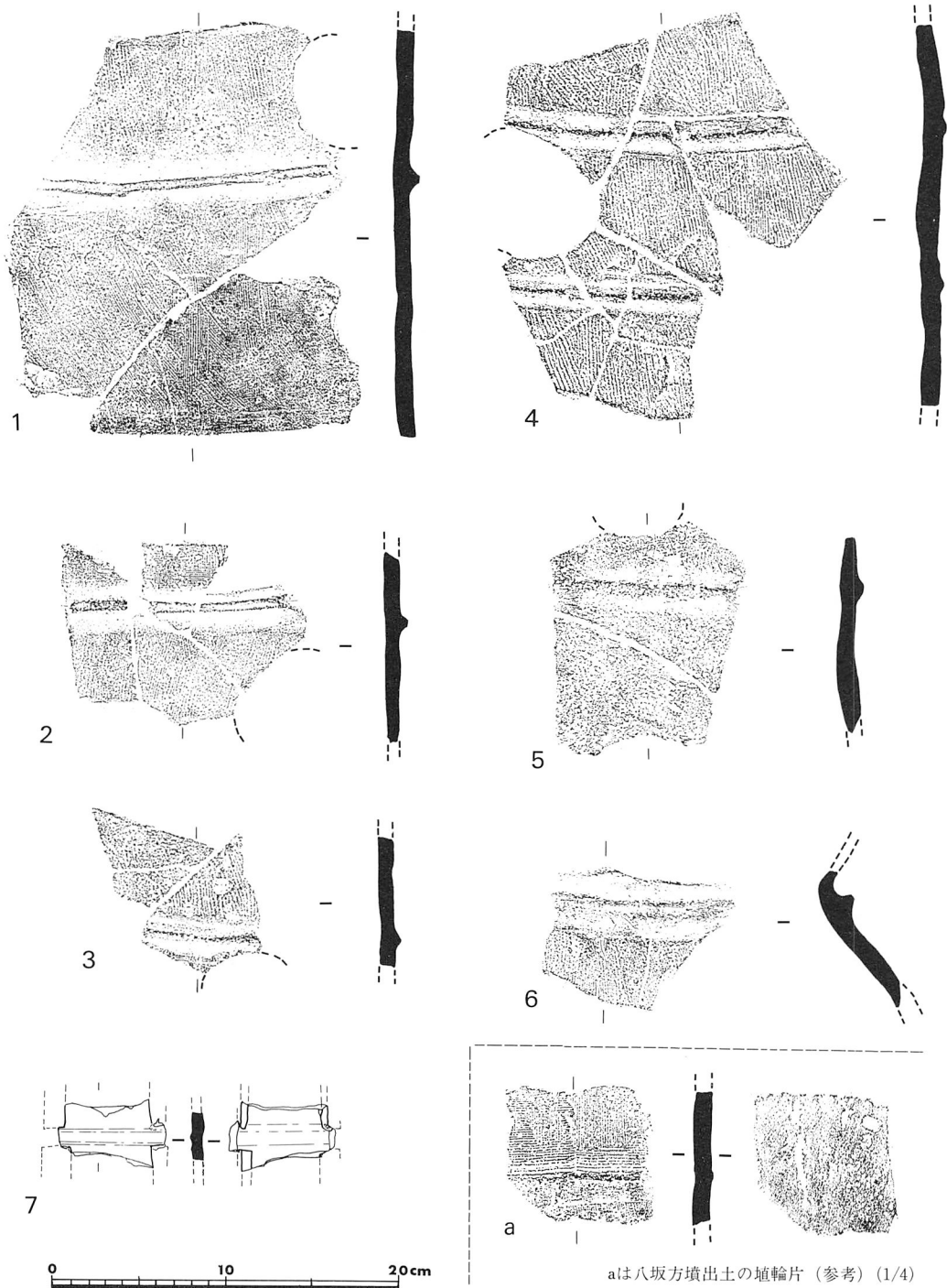


図10 出土遺物実測図（埴輪：1～6，須恵器：7）(1/4)

4. ま と め

今回の試掘調査で平安京跡の遺構については、条坊に伴うとみられ溝跡が検出された程度で、いずれのトレンチも地山確認面が浅く、この付近は過去に遺構面が削平（芹田による開墾など）を受けた可能性が大きい。

第2トレンチ及び補助トレンチ1・2から検出された埴輪を伴う古墳は、遺構検出面が極めて浅く、地表下0.8m余りで周濠の肩部に当たる。また古墳の主体部（墳丘部）は、周濠が北方から南方に延びるため、AブロックとBブロックの両敷地にまたがり、それより南方にかけて主体部（埋葬施設）が存在するものと推測されるが、検出面が浅いため主体部は削平されている可能性が高い。

試掘調査は遺構確認を主とした調査であるため、古墳の形状や範囲確認は実施していないが、南方は鉄道線路敷きになるため今のところ発掘調査は不可能である。

墳形については周濠が弧を描いていることから、今のところ円墳か隅丸の方墳と考えられるが、南西で周濠がとぎれる（ブリッジ部か）ため全体像は明確ではない。

そのほかこの周辺にはまだ古墳が存在する可能性もあり、今後この付近で行われる土木工事には注意を要する。

今回の調査で検出した古墳の範囲内は、協議の結果、工事計画から除外して保存されるため本発掘調査は行っていないが、平安京跡の範囲内から、埴輪を伴う古墳が発見された意義は大きく、明確な古墳とすれば最初の発見例（平安京下層遺構）となる。

京都市内の埴輪を伴う古墳は、寺戸大塚古墳・妙見山古墳・殻塚古墳・天皇ノ杜古墳・天鼓ノ森古墳・山田桜谷1・2号墳など桂川右岸にある前期の前方後円墳が主流である。

そのほか特異な例として、東山区の高台寺境内にある中期の方墳である八坂古墳（二段築成の方墳で埴輪を伴い、別名「バイタ古墳」ともいう）や、鳥羽離宮跡から出土した形象埴輪を伴う古墳などもあるが、京都盆地中央付近からの発見は極めて珍しいといえる。

この古墳に関係するとみられる集落跡は、今のところ当該地の直ぐ南方にある西寺跡下層の唐橋遺跡（集落跡）が考えられる。

遺跡内にある洛陽工業高校からは古墳時代中期から後期にかけての竪穴住居跡が見つかっており、古墳被葬者に関係する可能性を有する。

(梶川敏夫)



写真1 埴輪を伴う古墳が見つかった第2トレンチ東端全景(西から)



写真2 埴輪を伴う古墳が見つかった第2トレンチ東端全景(北から)



写真3 検出遺構(古墳)(西北から)



写真4 古墳西側周濠部(北から)



写真5 埴輪検出状況(北から)



写真6 古墳周濠部の土層断面写真(南から)

III 平安京左京八条三坊三町跡 No.36

1. 調査経過

調査地はJR京都駅の北、京都中央郵便局の西側の京都市下京区東塩小路無番地に所在する。平安京の地点表示では左京八条三坊三町に位置する。当該地の現状は青空駐車場であるが、この地にJR西日本が立体駐車場の計画をたてたため、平成4年7月27.28日の2日間にわたって調査を行った。

調査は5箇所にトレンチを設定して行った。その結果、中世の土壌や平安時代の井戸などを発見した。

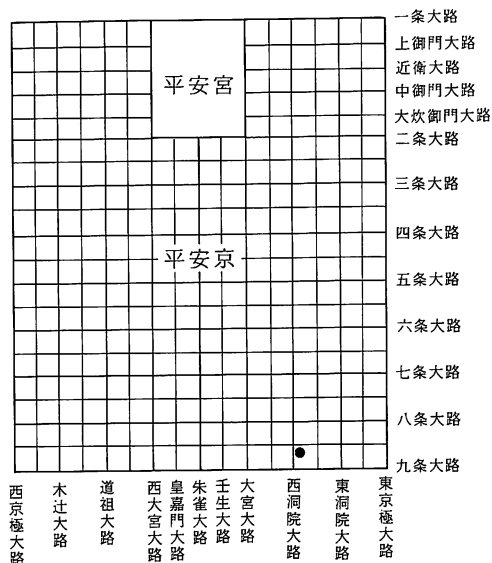


図11 平安京条坊図 (調査位置)

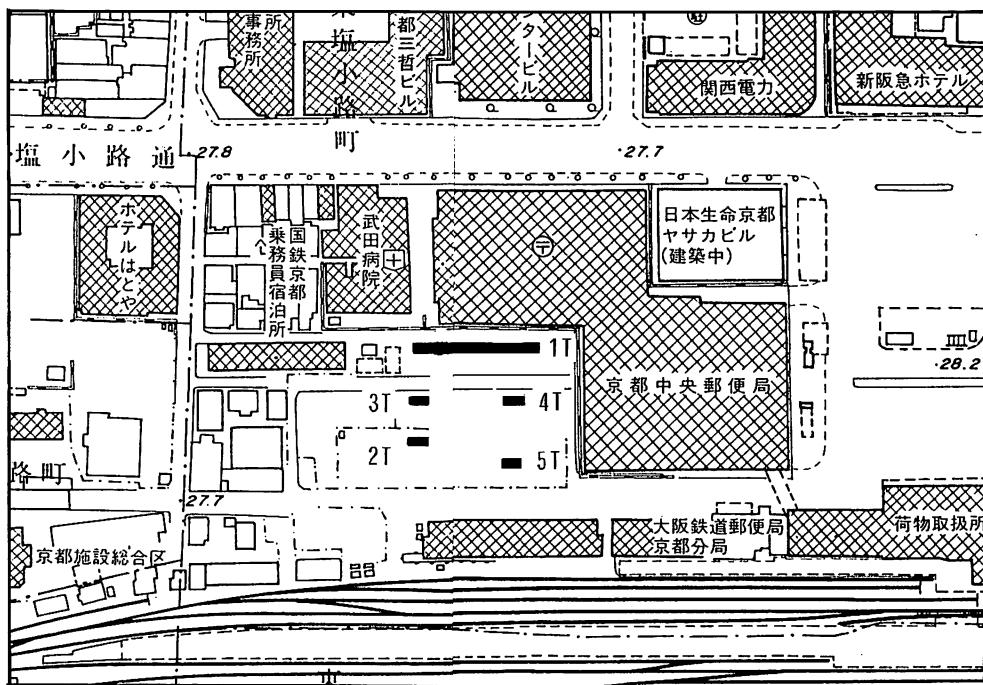


図12 調査地位置図 (1/2,500)

2. 遺構・遺物

5箇所のトレンチの概要は以下のとおりである。

1 トレンチ（南北3.4m 東西41m） 層序はGL-1.42mまでが近現代の盛土層，GL-2.61mで地山の砂礫層。その間に近世から室町時代の遺物包含層が堆積する。

発見した遺構は，土壙3基・井戸1基である。土壙1の平面形は円形と思われ，直径約2.4m，深さ約0.3mを測る。土壙内からは土師器の皿類（図15-1～5）が出土した。土壙2の平面形は円形で，直径約1.2m，深さ約0.15mを測る。土壙内からは土師器の皿類（図15-6）が出土した。土壙3の平面形は円形と思われ，直径約2.5m，深さ0.4m以上あり井戸の可能性が高い。土壙内からは土師器の皿類（図15-7）が出土した。井戸4の平面形は円形で，検出面からの深さは約0.35m，曲げ物の一部がかなり腐植した状態で残存していた。井戸内からは土師器の高杯（図15-8）・緑釉陶器の椀・須恵器の甕などが出土した。

土壙1～3は室町時代，井戸4は平安時代前期と考えられる。

2 トレンチ（南北2.3m 東西6.2m） 層序はGL-1.73mまで近現代の盛土層，GL-1.95mで地山の砂層に達し，その間に近世の遺物包含層（暗褐色土）が堆積する。遺構は発見できなかった。

3 トレンチ（南北2.4m 東西5.5m） GL-0.6mで厚さ1m以上の池状遺構の堆積を認めた。池底は漆喰で固められ，埋土は暗青灰色泥土で，埋土内の遺物から近世から近代にかけて造られた池と考えられる。この池状遺構の下層，GL-1.9mで厚さ約0.1mの中世の遺物包含層（褐色砂泥）を認めた。

4 トレンチ（南北2.4m 東西6.4m） 3 トレンチと同

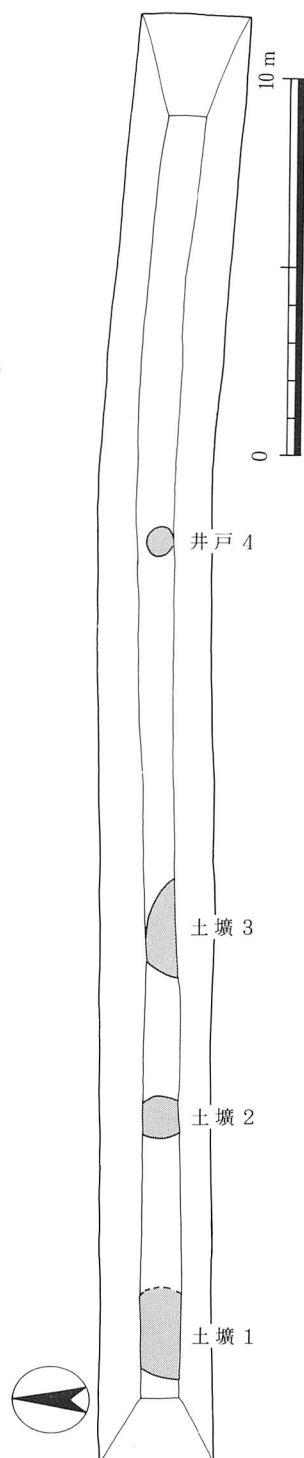


図13 1 トレンチ遺構実測図 (1/200)

様にGL-0.82m以下に厚さ約0.9mの池状遺構の堆積を認めた。池底は粘土によって固められている。この池状堆積の下層、GL-1.75mで厚さ約0.35mの遺物包含層を2層（上層：黒褐色砂泥 下層：オリブ黒色砂泥）を認めた。時期は特定できないが中世と考えられる。

5トレンチ（南北2.6m 東西6.9m）層序はGL-1.65mまで近現代の盛土層、GL-1.7mで厚さ約0.5mの遺物包含層（黒褐色砂泥）を認めた。時期は中世か？さらにその下層で厚さ約0.05~0.25mの平安時代後期の遺物包含層（褐灰色砂泥）が堆積する。この包含層からは土師器の皿（図15-8）・京都産の軒丸瓦（図14）・丸瓦などが出土した。

3. まとめ

1トレンチでは室町時代の土壙や平安時代の井戸などの遺構を発見した。他のトレンチはどれも小規模なもので土層の観察程度の調査であったが、中世の遺物包含層、場所によっては平安時代の遺物包含層が後世の削平を受けずに残っていることを確認した。

（長谷川行孝）

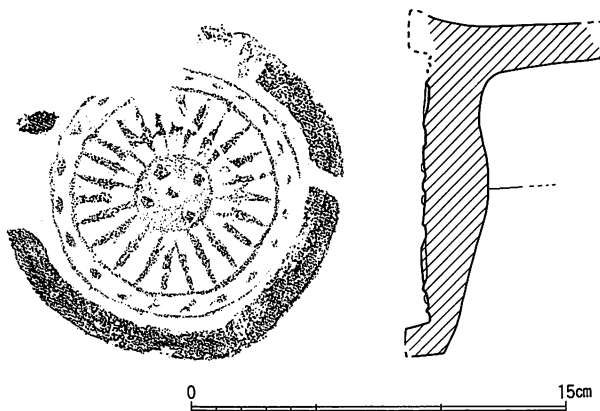


図14 軒丸瓦拓影・実測図 (1/3)

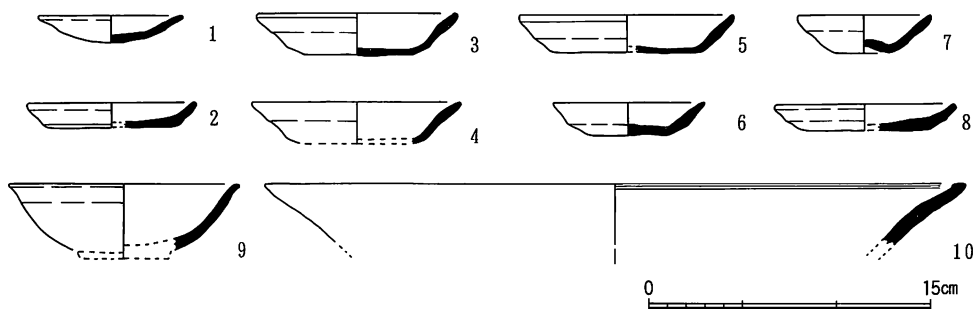


図15 土器実測図 (1/4)



写真7 1トレンチ全景(東から)



写真8 3トレンチ全景(南西から)



写真9 5トレンチ東端部(南東から)



写真10 調査地遠景(南東から)

IV 平安京左京八条三坊六・十一町跡 No.37

1. 調査経過

調査地は京都市下京区烏丸通塩小路下る塩小路町のJ R京都駅敷地内に位置する。本調査は京都駅ビル建て替え工事に伴うものであり、調査対象地は現駅ビル北側一帯の駐車場及び広場など約2,200㎡である。

現駅ビルは10棟の建物からなる複合施設であり、この内、埋蔵文化財調査を実施しているのは大阪鉄道郵便局京都分局庁舎棟のみで、他の建物は未調査である。このことから、今回の調査結果をもとに現駅ビル下の埋蔵文化

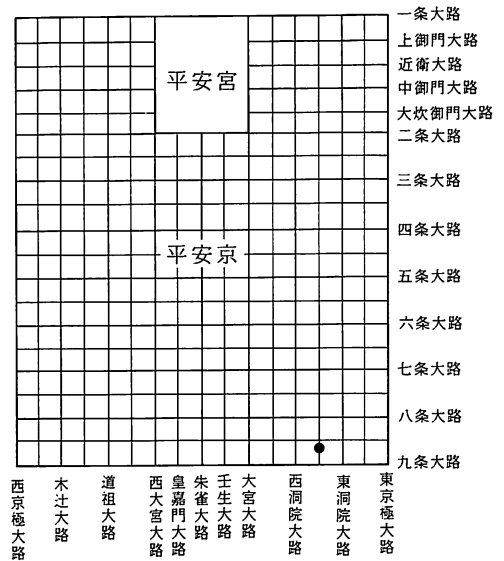


図16 平安京条坊図 (調査位置)

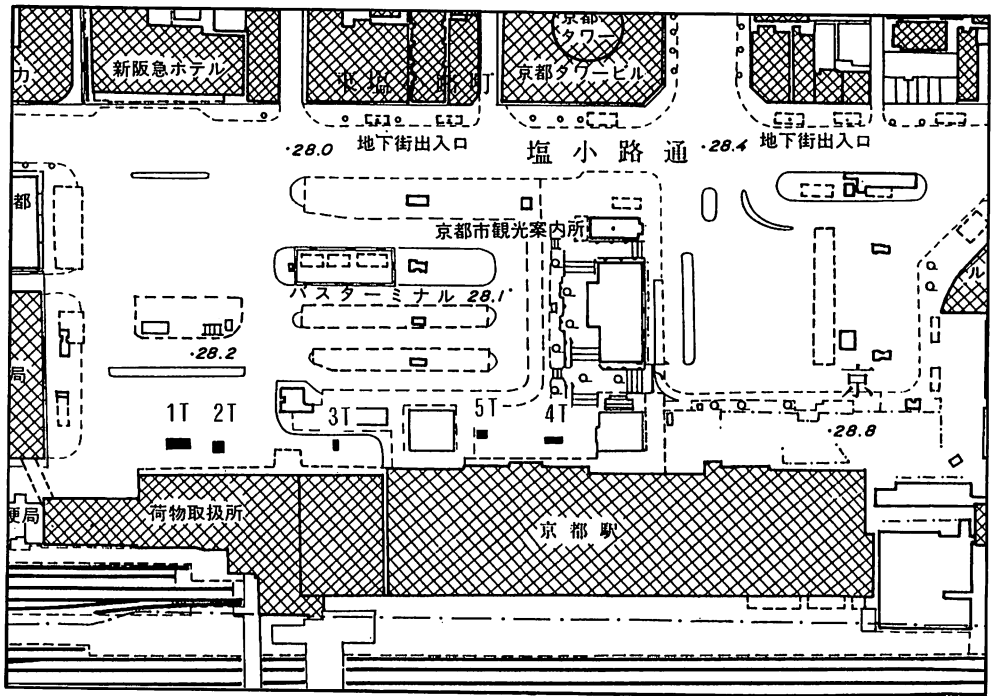


図17 調査地位位置図 (1/2,500)

財の残存状況をもある程度推測しようとするものである。

調査は、人や車の往来が激しくまた、アスファルト舗装が施されている所で行うため、事前に既存埋設管の位置を確認した後、トレンチの位置を決め、調査前日に仮囲いを行い、アスファルトにカッターを入れて行った。

調査は平成4年9月9・11・30日の3日にわたって行った。調査箇所は、事前に4箇所設定したが、実際に掘削を始めると未知の埋設管や基礎などが現れ、計画通りに掘れなくて、小規模なトレンチで対応したところもあり、結果として5箇所になった。

2. 遺構・遺物

5箇所のトレンチの概要は以下のとおりである。

1トレンチ（南北2.4m 東西7.9m）左京八条三坊六町に位置する。

層序は、GL-2.1mまでが、京都駅関連の盛土である。以下、GL-2.47mまで江戸時代、GL-2.6mまで室町時代、GL-2.7mまで鎌倉時代、GL-2.85mまで平安時代後期と各時代の遺物包含層が良好に残る。地山は砂礫である。遺構は発見できなかった。

2トレンチ（南北3.8m 東西3.3m）1トレンチと同じ左京八条三坊六町に位置する。事前の調査計画では、1・2トレンチは一つのトレンチとして設定し、アスファルトをカットしたが、残土の置き場や未知の地中梁が現れたことから二つのトレンチに分けて調査を行った。

層序は、GL-2.35mまでが京都駅関連の盛土、GL-2.45mで平安時代後期の遺物包含層（厚さ8cm）、さらにこの下層で土師器片（時期不明）をわずかに含む灰色砂泥層が約13cmの厚さで堆積している。

検出遺構は、トレンチの東壁部分で平安時代後期の井戸1基（図18）を認めた。井戸の深さは約0.7m、平面形は方形と推定でき、木枠の底部が一部残存していた。

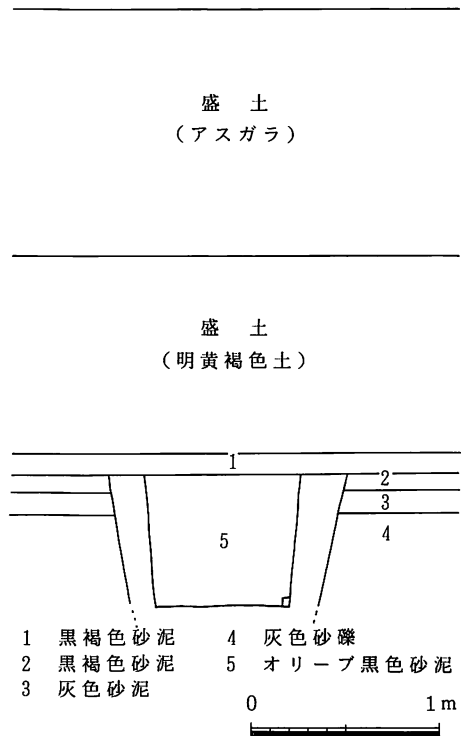


図18 2トレンチ東壁土層図 (1/40)

遺物は土師器の皿類（図19-1～9）が井戸から出土した。1はコースター形の皿で、口径8.4cm、器高1.0cm。2～5は口径9.6～10.1cm、器高1.3～1.8cm、6は口径12.6cm、器高2.4cm、7～9は口縁部が二段ナデ、口径14.5～15cm、器高2.2～3.2cmある。

3トレンチ（南北3.9m 東西1.7m）事前の調査計画では、推定室町小路東築地部分をねらってトレンチを設定したが、未知の埋設管や基礎などが現れ、面的な調査が不可能となり、断面観察程度しか調査出来なかった。

層序は、GL-2.15mまでが京都駅関連の盛土層で、以下1トレンチと同様である。遺構は発見できなかった。

遺物はGL-2.7mの鎌倉時代の遺物包含層から土師器皿（図19-10～12）・青磁皿（図19-13）などが出土した。10はコースター形の皿で、口径5.2cm、器高0.8cm、11・12は体部が内湾気味に立ち上がり、口径13～13.4cm、器高3cm。13の青磁皿は口径10cm、器高2.4cm、高2.4cm。

4トレンチ（南北1.2m 東西4.5m）左京八条三坊十一町に位置する。

層序は、GL-2.15mまでが京都駅関連の盛土層で、以下GL-2.34mまでが黒褐色砂泥の遺物包含層、GL-2.54mまでが灰色泥砂の遺物包含層であり、地山は砂礫層である。遺物包含層に含まれる土器は細片でかつ量も少なくその時期を特定することは難しいが、層序自体は2トレンチと同じであることから、中世から平安時代末にかけてのものであると推測される。遺構は発見できなかった。

5トレンチ（南北1.8m 東西3.3m）左京八条三坊十一町に位置する。

層序は、GL-2.16mまでが京都駅関連の盛土層で、以下地山面（GL-2.9m）までに

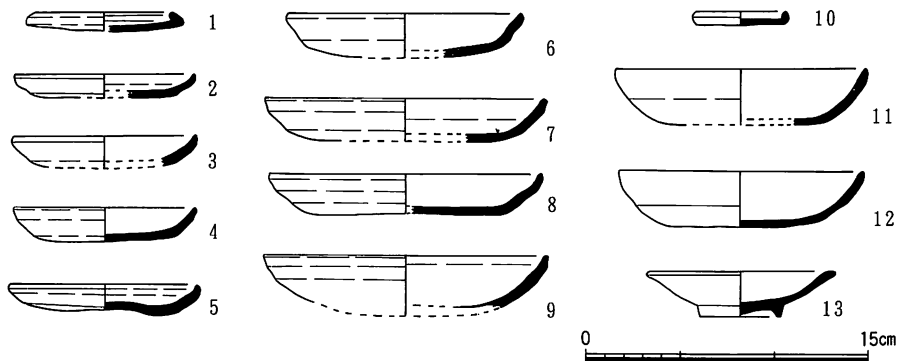


図19 土器実測図 (1/4)

3層の遺物包含層を検出した。このトレンチも遺物包含層に含まれる土器は細片でかつ量も少なくその時期を特定することは難しいが、層序自体は2トレンチと同じであることから、中世から平安末にかけてのものであると推測される。遺構は、発見できなかった。

3. ま と め

5箇所のトレンチにおける基本層序は同じで、現地表面から約2mまでは、京都駅建設に関連した盛土層が堆積（埋設管等はこの盛土層内に留まる）し、その下層に中世から平安に至る遺物包含層が、良好に残っている。地山は砂礫層で、現地表面から約2.6～2.9mの深さにある。このことから今回の試掘調査対象地である現駅ビル北側一帯の駐車場及び広場などは、平安時代以降大きな削平を受けることなく現在に至っているようである。

発見した遺構は、平安時代の井戸1基であるが、遺物包含層が良好に残っていることから、他に遺構の存在する可能性は高いと考えられる。

(長谷川行孝)



写真11 1トレンチ全景(西から)



写真12 5トレンチ掘削中(南から)

V 法勝寺跡 No.47

1. 調査経過

調査地は京都市左京区岡崎法勝寺町に在る京都市動物園内に所在し、獣舎新築工事に伴う試掘調査である。当該地は平安時代後期に造営された法勝寺境内に位置し、獣舎建設予定地は、八角九重塔推定地の北西方向に在り、従来の推定では池の中に当たる。

調査は平成4年4月27日に2箇所トレンチを設定して行った。その結果、法勝寺に関連すると思われる東西方向の溝と土壌状遺構を発見したため、全面的な発掘調査が必要と判断した。その後、埋蔵文化財調査センターと関係者との間で協議した結果、設計変更によって、遺構保存することになった。しかし計画建物の北半部は基礎が深く入るため、その部分について再度、試掘調査を5月25日に行った。この2回目の調査では、2箇所にトレンチを設定して行ったが、近現代の土壌によって地山が広く削平されており、顕著な遺構は検出できなかった。

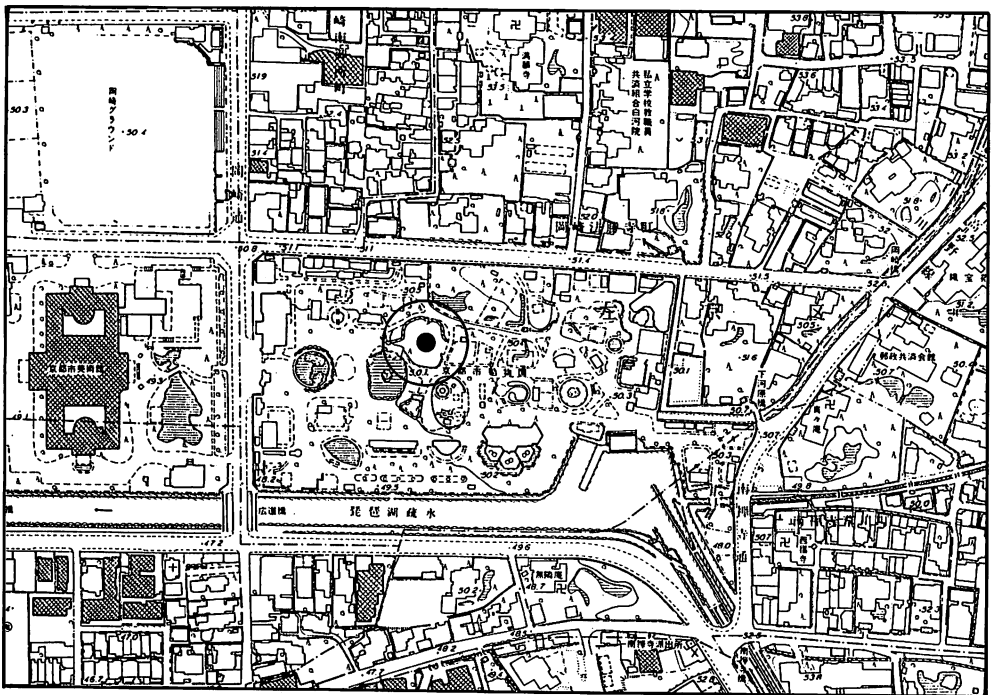


図20 調査地位置図 (1/5,000)

2. 遺構・遺物

調査地の基本層序は、上から盛土(厚さ0.35m)、灰白色細砂(厚さ0.2m)、灰黄褐色細砂(厚さ0.1m)、黒褐色砂(厚さ0.05m)、褐色砂(地山)である。

発見した主な遺構には、1トレンチで溝1、2トレンチで溝2・3、土壇状遺構4があり、いずれも褐色砂上面で検出した。

溝1 東西方向の溝で幅1.8~2.1m、深さ0.4m、断面はU字形を呈する。溝の南肩斜面から底部にかけては、部分的に拳大の河原石を置き、また溝の北肩部から北方の地盤面は

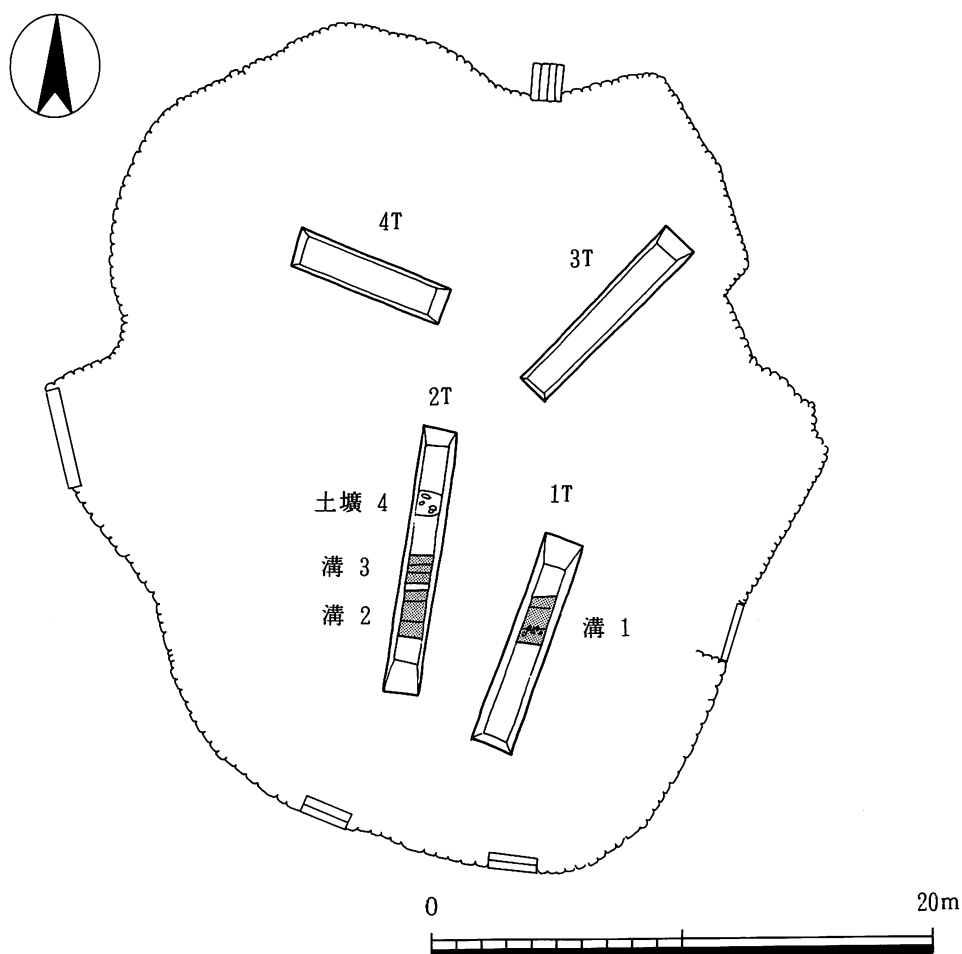


図21 調査地平面図 (1/300)

砂混じりの粘土で比較的固く締まった状況である。溝内の埋土は、灰黄褐色砂泥で、平安時代後期の瓦と土師器の細片が若干出土した。

溝2 東西方向の溝で幅1.8m、深さ0.25m以上、埋土は灰黄褐色泥砂。出土遺物は、平安時代後期の瓦類が主で他に羽釜の破片が出土した。図23-1は平瓦凹面に五輪塔の叩き痕が残るものである。

図23-2の唐草文軒平瓦は折り曲げ式による京都産の瓦で、瓦当面に布目痕が明瞭に残る。

溝3 溝2から北へ約0.3m離れて検出した東西方向の溝で幅1.1m、深さ0.3m以上、埋土は溝1と同じ。

土壇状遺構4 溝3から北へ約2mの地点で検出した土壇状の遺構である。平面形は楕円形(南北0.9m 東西1m以上)と思われる。この遺構は砂層を掘り込んだ穴の中に40cm前後の石(4石確認)を入れ、黄色粘土で固めているように観察できる。

3. まとめ

発見した溝1は溝2に続くと考えられる。溝内から出土した遺物は平安時代後期の瓦類が主体であることから法勝寺に関連した遺構と思われる。また土壇状遺構は、礎石の据え付け穴、あるいは景石の据え付け穴の可能性がある。(長谷川行孝)

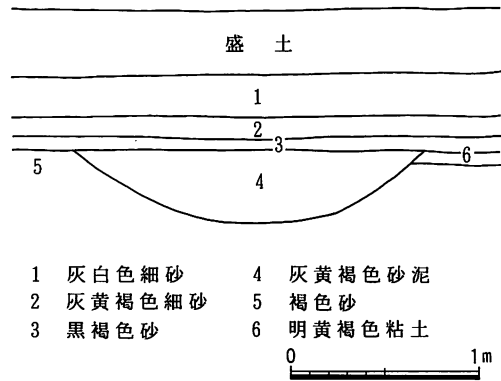


図22 1トレンチ西壁土層図 (1/40)

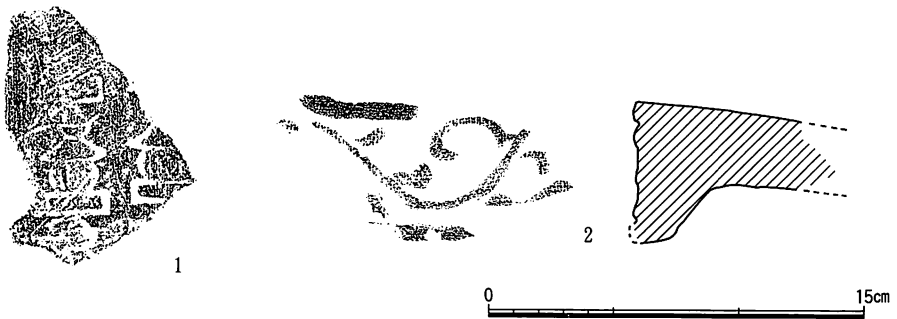


図23 平瓦・軒平瓦拓影・実測図 (1/3)



写真13 1 トレンチ全景(南から)



写真14 2 トレンチ全景(北から)



写真15 3 トレンチ全景(北東から)



写真16 4 トレンチ全景(南西から)

VI 伏見城跡 No.56

1. 調査経過

調査地は京都市伏見区桃山最上町37-1他に所在し、伏見城の城下に当る。「豊公伏見城ノ図」によれば最上町は最上駿河守の屋敷跡に該当する。この地にマンション建設が計画されたため平成4年11月30日に試掘調査を行った。調査はトレンチをL字形に設定して行った。その結果、トレンチの北端部において桃山時代の土壌2基を発見した。

2. 遺構・遺物

調査地は東から西へ緩やかに傾斜する丘陵地に在り、現状はガレージとして使われているが、かつては茶畑であったという。

層序は、盛土の下に旧耕作土が堆積し、GL-0.7mで地山の暗赤褐色粘質土に達する。

土壌2基はこの暗赤褐色粘質土上面で発見した。この2基の土壌は両者から出土した遺物が接合したため同じ時期に掘られたと推定される。

土壌1 平面形は隅丸方形、南北2.1m、東西2.6m、深さ0.2~0.25mの大きさで、埋土

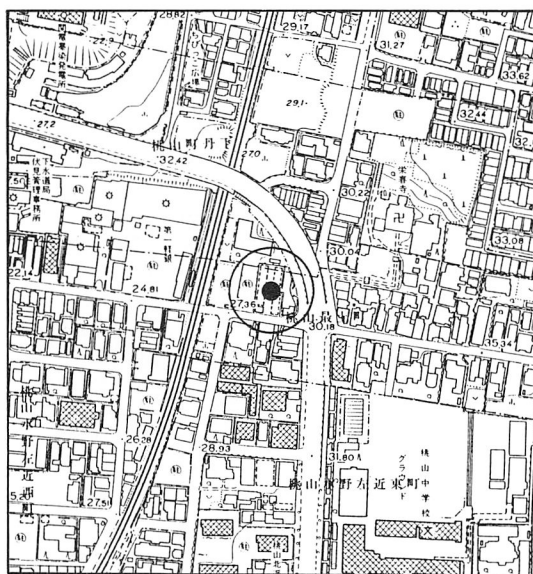


図24 調査地位置図 (1/5,000)

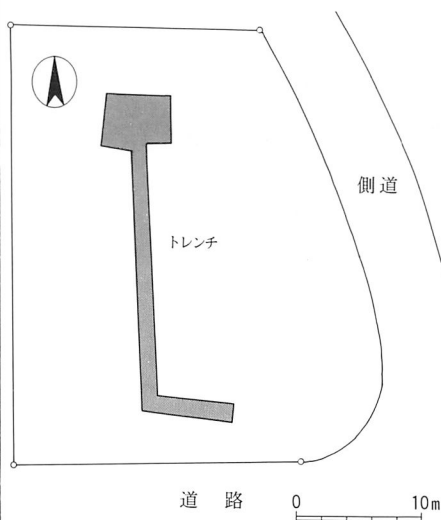


図25 トレンチ配置図 (1/600)

は暗褐色土で木炭を含む。遺物は土師器皿が主体で出土した(図27)。

1～6は土師器皿で6以外は内面の底部と体部との境に凹状の圈線がめぐる。

1・2は口径9.8～10cm, 器高2cm。

3・4は口径11.4cm, 器高2.2cm, 口縁端部にススが付着する。5は口径12.6cm, 器高2.1cm。6は口径11.6cm, 器高1.9cm, 体部外面を丁寧に仕上げる。

7～9は瀬戸・美濃系の陶器である。

7は灰釉の皿で口径10.8cm, 器高1.8cm。8は灰釉の折縁皿で内面に花卉文を施す。口径11.8cm, 器高2.5cm。9は天目茶椀で口径11.6cm, 器高6cm。

土壙2 土壙1の西側に隣接し、トレンチの西端付近で発見したため全体の規模は明かでない。南北幅2.9m, 東西1m以上, 平面形は楕円形か?。深さは0.4m, 埋土は土壙1と同じで, 瀬戸・美濃系の灰釉皿が出土した。

3. まとめ

当地が最上駿河守の敷地内であれば, 発見した土壙はそれに関係した遺構になる。しかしそれ以外に邸宅跡を示す遺構や遺物などは発見できなかった。

(長谷川行孝)

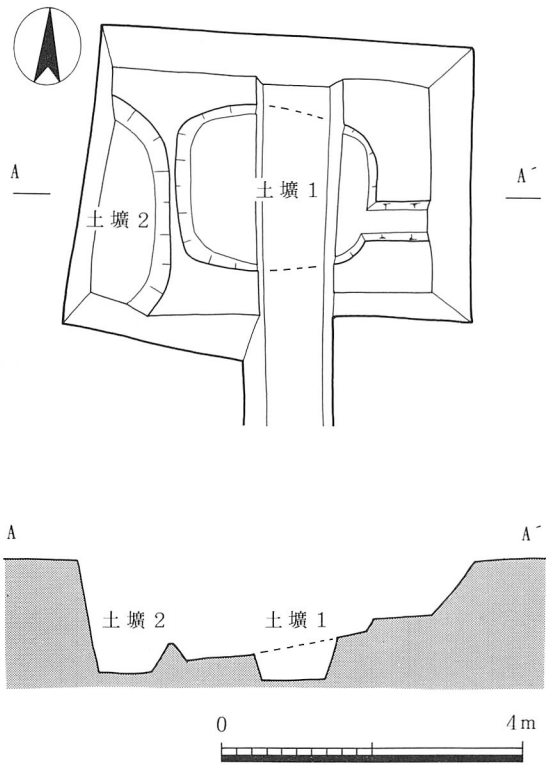


図26 遺構実測図 (1/100)

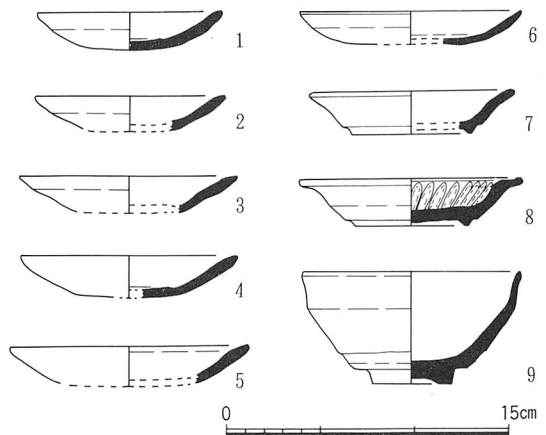


図27 土器実測図 (1/4)

VII 中久世遺跡 No.67

1. 調査経過

調査地は京都市南区久世中久世町4丁目77-1に所在する畑地である。この地にマンション建設が予定されたため、事前に試掘調査を平成4年12月24日に行った。調査はまず東西方向のトレンチ（1トレンチ）を設定して行った結果、トレンチの西端付近で8世紀代の溝を検出したため、その付近を南と北に拡張して溝を調査した。また、これとは別に南北方向のトレンチ（2トレンチ）を設け、弥生から古墳時代にかけての溝を発見した。

2. 遺構・遺物

調査地の基本層序は、上から耕土（厚さ0.15m）・旧耕土（厚さ0.1m）・オリーブ灰色砂泥（厚さ0.15m）・明黄褐色粘質土（地山）である。

発見した主な遺構には溝があり、4条の溝をいずれも地山上面で認めた。

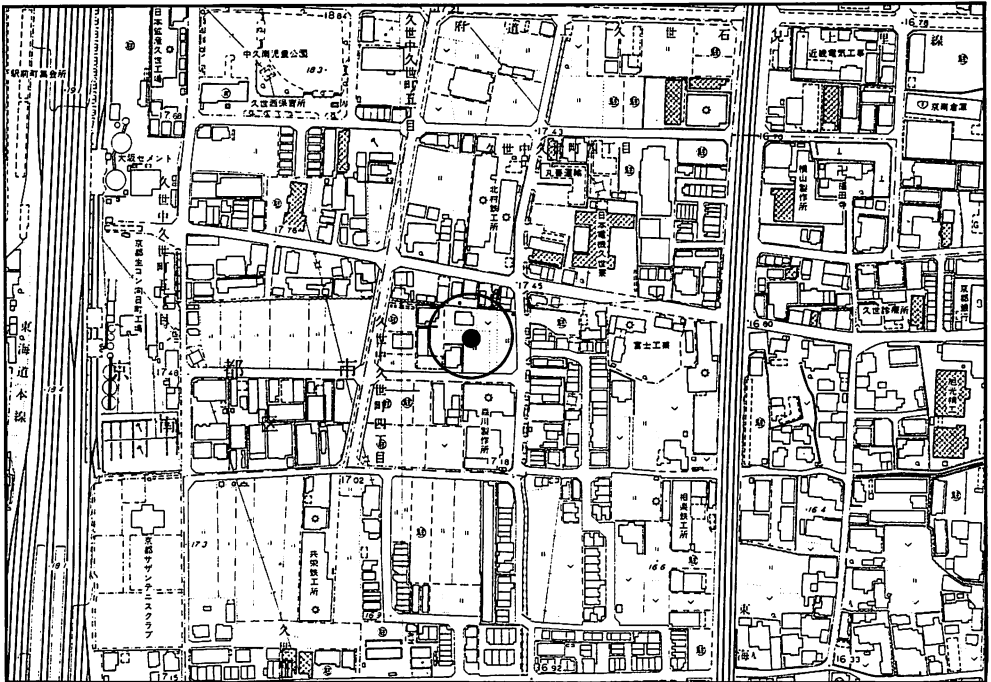


図28 調査地位置図 (1/5,000)

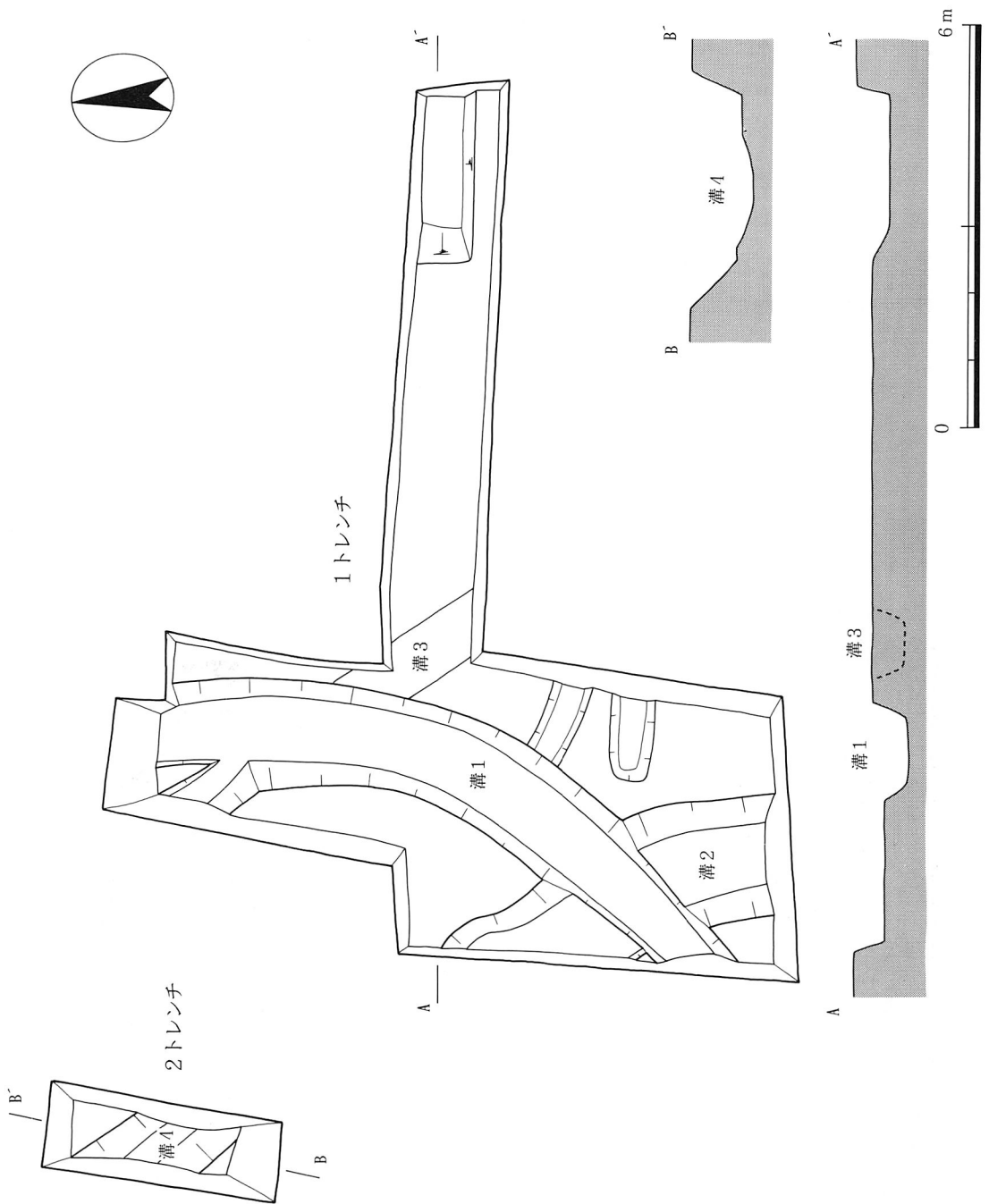


図29 遺構実測図 (1/100)

溝1 溝の幅は1.4m、深さ0.45m、断面形は逆台形を呈する。この溝は、トレンチの北寄りでは南北方向を向き、南に行くに従ってカーブを描きながら南西方向に向きを変える。埋土は上下2層に分けられ、上層は褐灰色泥砂、下層は黒褐色砂泥が堆積する。

上層の埋土からは8世紀前半の須恵器の杯・杯蓋・壺・甕、土師器などが出土した。

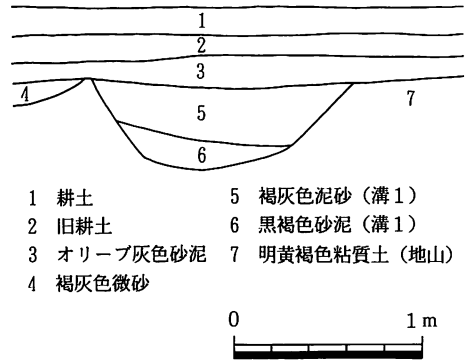
図示したのは、図31-1～4の須恵器杯・杯蓋である。1は杯A、口径12.5cm、器高3.4

cm。2は杯B、口径13.7cm、器高3.8cm。3は杯B、口径14.9cm、器高4.4cm。4は杯B蓋、口径15.8cm、器高2.7cm。

溝2 溝の幅は1.8m、深さ0.3m、断面形は逆台形を呈し、北に行くほど浅くなる。溝1を切り込んで北西から南東方向へ流れる。埋土は灰色泥土。埋土中から8世紀代の須恵器・土師器が出土した。

溝3 溝の幅は0.8m、深さ0.37m、断面形は逆台形を呈する。溝1に切られ北西から南東へ向かう。埋土は暗褐色砂泥、埋土中から8世紀代?の須恵器の摺鉢(図31-5)や土師器の細片が出土した。5は底部のみの破片で全体形は明らかでない。底部外面には直径5mm前後の穴を数多く開け、一箇所だけ内面まで貫通しているが他は内部で止まっている。底部は内外面ともに擦れて摩耗している。

溝4 溝の幅は1.3m、深さ0.3m、断面形は逆台形を呈する。溝の方向は北西から南東である。埋土は褐灰色泥土、埋土中からは弥生から古墳時代後期にかけての土器が混在して出土した。



- | | |
|------------|---------------|
| 1 耕土 | 5 褐灰色泥砂(溝1) |
| 2 旧耕土 | 6 黒褐色砂泥(溝1) |
| 3 オリーブ灰色砂泥 | 7 明黄褐色粘質土(地山) |
| 4 褐灰色微砂 | |

図30 1トレンチ北壁土層図 (1/40)

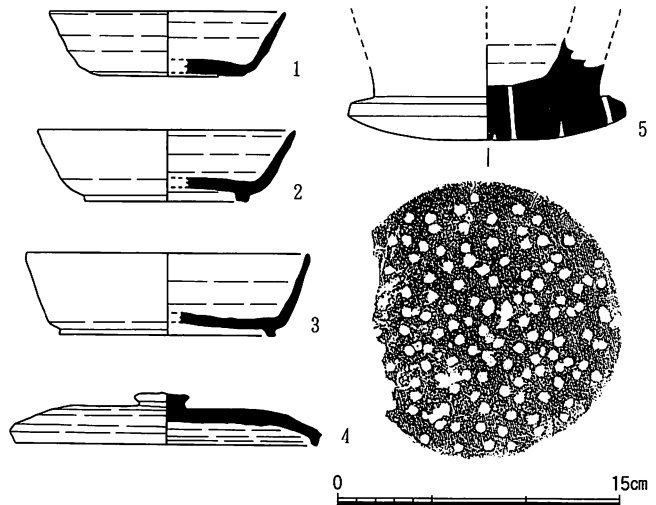


図31 土器実測図 (1/4)

3. ま と め

今回の調査では、敷地の西より付近で古墳時代から8世紀代にかけての溝を4条発見した。本調査では住居跡などの直接人が生活していた痕跡は認められなかったが、付近に集落のある可能性は高いと考えられる。また、溝3から出土した摺鉢は、底部外面に小さな穴を多くあけたもので、あまり多くの類例を見ないものである。

(長谷川行孝)



写真17 1トレンチ全景(南から)



写真18 溝1全景(北から)

VIII 福西28号墳 No.68

1. 調査経過

調査地は西京区大枝東長町1-205に所在し、福西古墳群内に位置している。敷地西南部には、福西22号墳^{註1}が在り、玄室の一部が当敷地内に延びていることが推定されている。試掘調査は、平成4年9月2日に実施し、福西22号墳以外に古墳の存在が確認できるかどうかを中心に行ったところ、敷地東南部で天井部を破壊された横穴式石室を検出した。なお石室は建物下に埋戻し、保存している。

2. 遺構

調査時には、畑地に果樹が植えられて平坦地となっていたが、一部露出していた石を中心に調査をおこなった。

約0.2m掘り下げると、石は所々なかったが石組が

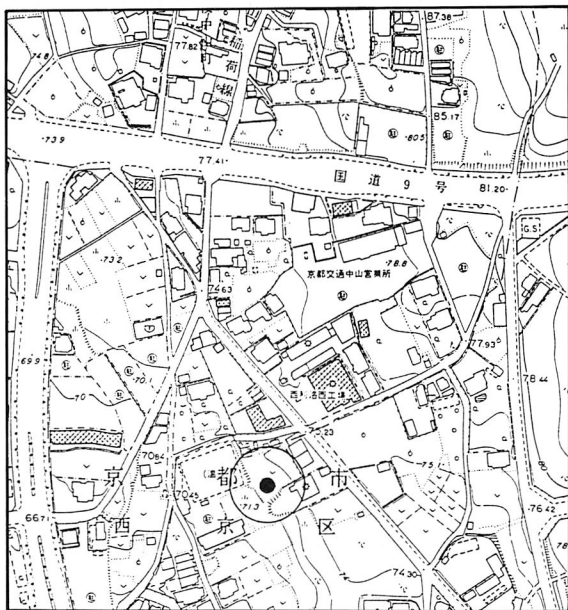


図32 調査地位置図 (1/5,000)

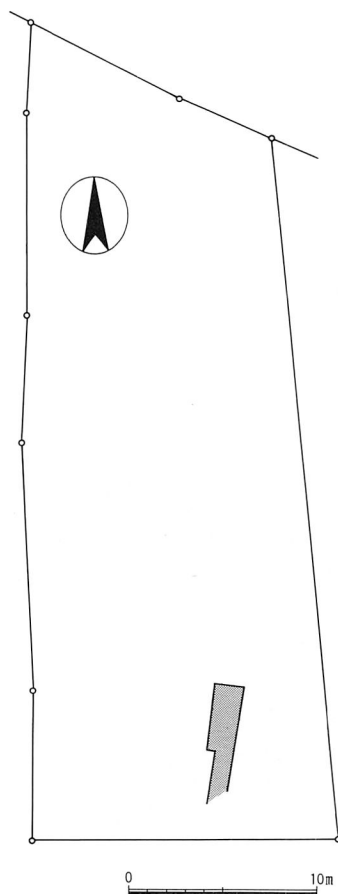


図33 遺構位置図 (1/400)

連続して現れた。内法幅1.2m、長さ2mのコ字状の石組となり、石室の玄室部と推定した。その後、石室内部をボーリングステッキで探査したところ、深さ0.45mで固く締まった面があり礫床の感じを受けた。側壁についても同じ深さまで連続していることを確認した。なお、須恵器1点が出土したが器種や型式は不明であった。また、石室検出に主眼を置いていたので周濠や墳形、墳丘規模は不明である。

3. ま と め

昭和20年代初頭の開墾によって破壊された古墳で、奥壁に向かって左片袖式の横穴式石室と考えられ、玄室長3m、玄室幅1.2m、現存深さ0.45mで玄室礫床と推測できる。推定年代は、福西古墳群の既調査結果から6世紀後半代としておきたい。(玉村登志夫)

註1 吉村正親「福西22号墳」『平成3年度 京都市内遺跡立合調査概報』京都市文化観光局 1991



写真19 石室検出状況(北から)

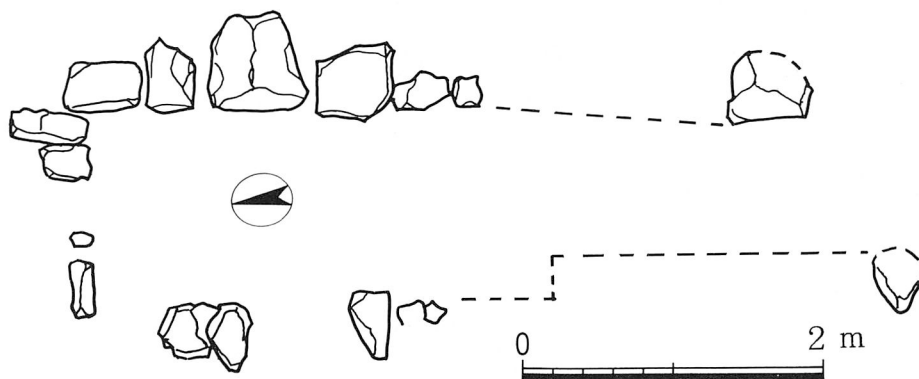


図34 石室実測図 (1/50)

IX 長岡京左京四条三坊跡 No.72

1. 調査経過

調査地は京都市伏見区羽東師菱川町210-1他の外環状線の南に接する畑地である。過去、外環状線の建設に伴う発掘調査で礎石建物跡や経文を記した漆紙文書等が出土し、また小字名が「西川原寺」であることから、当地周辺が川原寺跡であることがほぼ確実になった。この地に店舗建設の計画が生じたため、平成4年10月21日に試掘調査を行った。調査は南北方向のトレンチ（長さ34m）を1箇所、設定して行った。結果として川原寺に関する遺構は発見できなかったが、川原寺の遺構面が残っていることを確認した。

2. 遺構・遺物

調査地の基本層序は耕土以下、GL-0.2mでふい褐色粘質土、GL-0.46mで明褐色粘質土（時期不明の遺物包含層）、GL-0.81mで青灰色泥土、GL-1.3mで青灰色砂礫

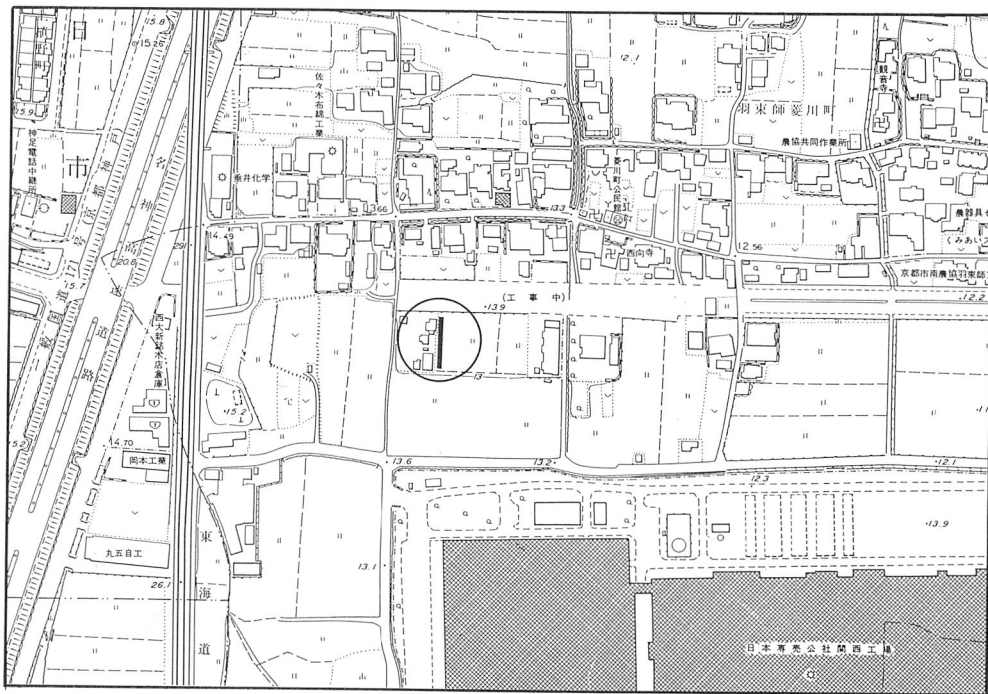


図35 調査地位置図 (1/5,000)

が堆積する。遺構検出は青灰色泥土上面で行った。

遺構は発見できなかったが、青灰色泥土上面で軒平瓦1点・平瓦1点・土師器数点を採集した。図36は土師器皿Bで口径24cm，器高2.9cm，調整は器面が摩耗しているため明かでない。図37は均整唐草文軒平瓦の瓦当中央部の破片である。中



図36 土器実測図 (1/4)

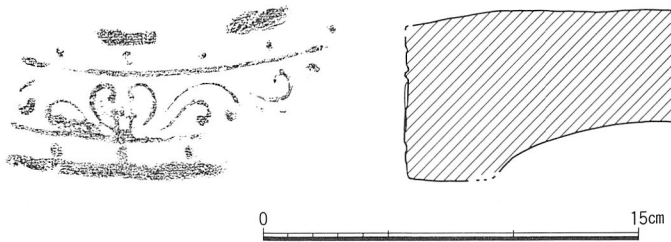


図37 軒平瓦拓影・実測図 (1/3)

心飾りに対向C字形と「井」字形を配する長岡宮式7757A cに分類される。^{註1}

3. まとめ

川原寺に関しては文献資料が乏しく，記録をもとに伽藍を復元することは不可能であり，発掘調査によってのみそれが可能となる。本調査では，川原寺に関する有力な遺構は発見できなかったが，遺構面が存在することは確認できた。

なお，当地に計画の建物は，基礎の深さを変更することによって遺構面の保存を図った。

(長谷川行孝)

註1 軒平瓦の形式番号は，「長岡京古瓦聚成」『向日市埋蔵文化財調査報告書 第20集』向日市教育委員会 1987年による。



写真20 トレンチ全景(南から)

X 長岡京左京四條四坊跡 No.73

1. 調査経過

調査地は京都市伏見区羽東師菱川町339の水田である。敷地の北側は外環状線に面し、東側は農業用水路によって区画されている。この地に店舗の建設が計画されたため、平成4年10月23日に試掘調査を行った。調査はトレンチをL字形に設定して行った。その結果、長岡京期と考えられる柱穴や溝、竪穴住居と推定される遺構を3箇所で見出した。

2. 遺構・遺物

調査地の基本層序は、上から耕土（厚さ0.2m）・青灰色泥土（厚さ0.2m）・明黄褐色粘質土が堆積する。この明黄褐色粘質土が今回の遺構検出面であり、敷地の北側では青灰色泥土が厚く堆積しているため遺構検出面はGL-1mで現れる。

発見した遺構の大半は、遺構検出のみで掘り下げていないため、平面的な観察に留まっ

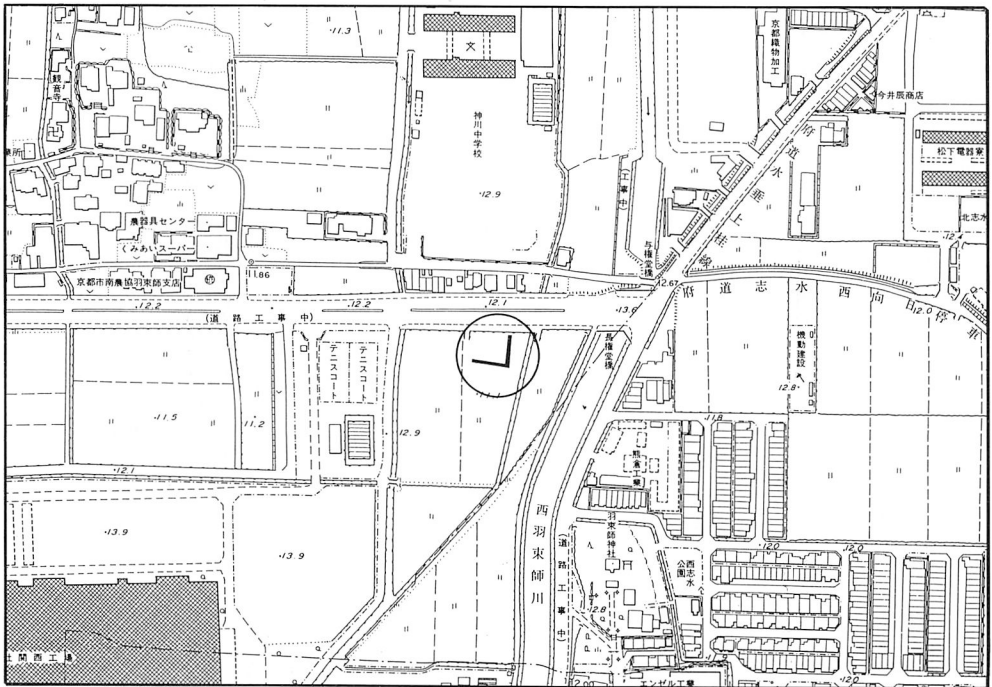


図38 調査地位置図 (1/5,000)

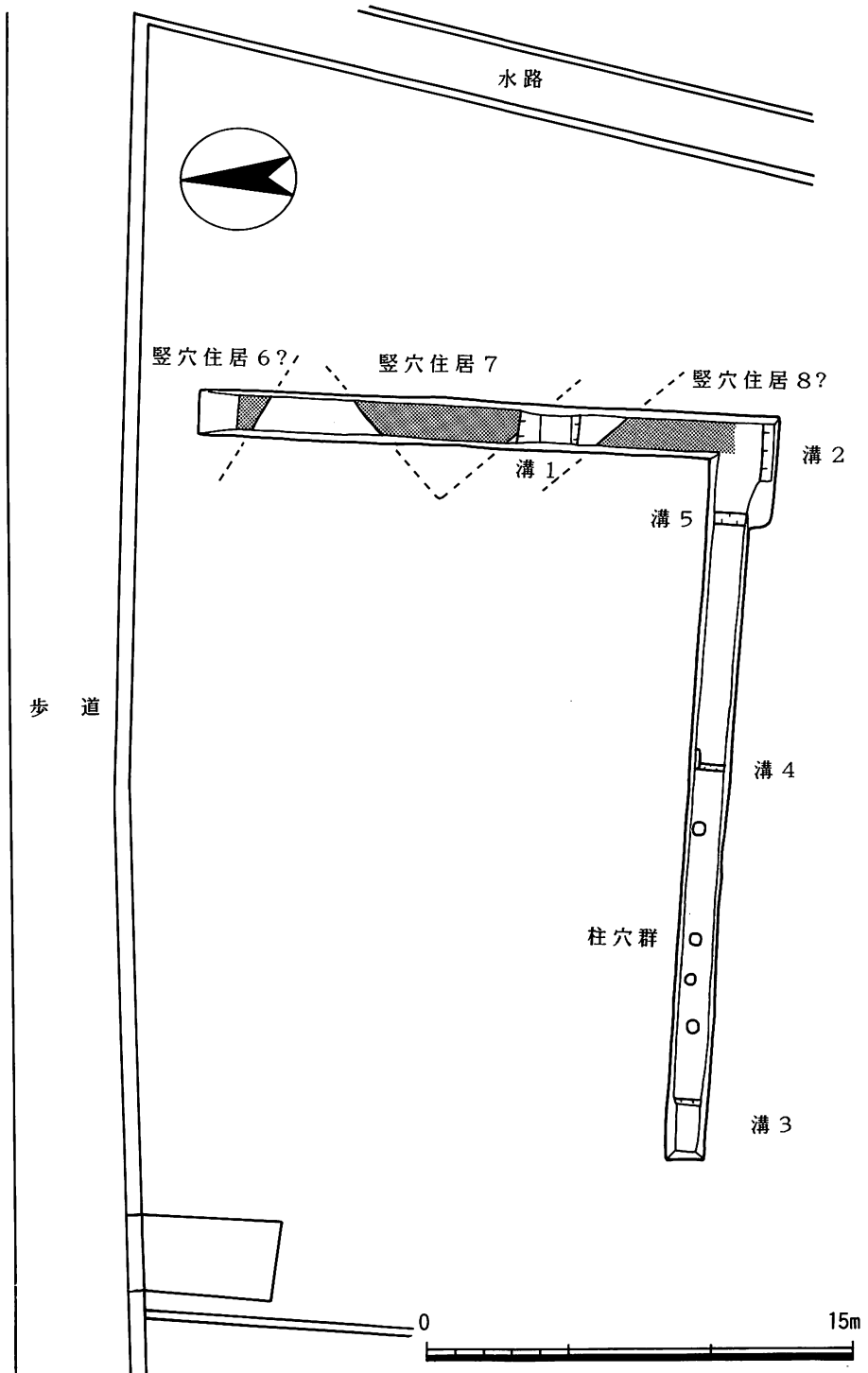


图39 遺構実測図 (1/250)

た。以下、その概略を記す。

溝 1・2・3 いずれの溝も中世と思われる、埋土はよく似た灰色泥土を呈し、同時期の溝と推測される。溝1は東西方向で幅2.1m、深さ0.6m。溝2は東西方向、規模は不明。溝3は南北方向で幅8.5m以上、深さ1m。

溝 4・5 長岡京期と思われる南北溝で、幅は0.5m前後ある。埋土は灰色泥土。両者の溝の間隔は8.7mあり、長岡京左京東四坊第一小路の側溝に該当する可能性がある。

柱穴群 トレンチの西よりで4箇所、柱穴を発見した。いずれも長岡京期と思われるが建物として捉えるまでには至っていない。

竪穴住居 6・7・8 トレンチの東よりで3箇所、竪穴住居と推定される土層の変化を確認した。時期・平面形など詳細については明らかでない。

3. ま と め

過去、当地周辺の発掘調査において長岡京期の遺構や弥生から古墳時代にかけての集落跡などが発見されており、調査前においてそれらに関連する遺構の発見が予想された。結果として、そのことが証明されるに至った。今回の計画建物は、現地表面から約1.8mの盛土上に建てるため、発見した遺構は保存されることになった。(長谷川行孝)



写真21 竪穴住居部分(南西から)



写真22 柱穴群部分(西から)

試掘調査一覧表

I 平成3年度 1～3月期

平安宮

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
内裏・聚楽第跡	上・出水通智恵光院西入田村備前町 231-2	2/24	GL-0.63mで南に向かって時期不明の地山の落込みを検出する。	1

平安京右京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
二条三坊十一町	中・西ノ京小堀池町1	2/19	GL-0.97mで地山。検出遺構なし。	2
三条二坊九町	中・西大路御池上る東入東中合町66	2/03	GL-1.16mで平安時代中期の包含層。GL-1.3mで地山。	3
五条三坊十二町	右・西院太田町70-2他	2/17	GL-1.1mで地山。検出遺構なし。	4
七条四坊七町	右・西京極東池田町37,72	3/25	GL-1.3～1.7mで池状堆積。	5
八条一坊 十二・十三町	下・梅小路頭町6他	2/12～14	GL-0.8mで古墳の周濠を検出。埋土内より円筒埴輪片が出土。設計変更を指導する。本文4ページ。	6 22 2

平安京左京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
北辺二坊四町	上・中立売通堀川東入東橋詰町66-1他	3/16	GL-0.8mで近世の包含層、GL-1.6mで中世の包含層、GL-1.25mで近世の石組井戸状遺構を検出。	7
八条二坊十三町	南・西九条北ノ内町	2/21	GL-2.5～2.7mで御土居の濠を検出する。遺存状況が悪いため工事中の立会調査を指導する。	8

太秦地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
史跡名勝嵐山	右・嵯峨天龍寺造道町	3/11	GL-0.7mでL字形に曲がる溝を検出した。	9

洛北地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉幡枝町661	1/07	GL-0.2mで平安時代後期の瓦溜・柱穴1を検出。発掘調査を指導する。	10

90
190

伏見・醍醐地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
伏見城跡	伏・肥後町380,385	3/09	GL-2.48mで時期不明の溝状遺構を検出。	11

鳥羽地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
鳥羽離宮跡	伏・中島御所ノ内町7-2,7	1/13	GL-1.68m以下, 湖沼内堆積。	12

南・桂地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
中久世遺跡	南・久世中久世町5丁目18-1	3/23	GL-0.49~0.6mで, 時期不明の溝。	13

長岡京地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
長岡京跡	南・久世築山町233	3/19	検出遺構なし。	14

II 平成4年度 4~12月期

平安宮

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
縫殿寮・聚楽第跡	上・下長者町通浄福寺東入坤高町79	6/24	GL-1.2m以下, 泥土堆積。聚楽第の堀跡か?	15
茶園・聚楽第跡	上・中立売通日暮東入新白水丸町426	7/15	GL-0.9mで近世の井戸1基を検出。	16
大藏省	上・七本松通仁和寺街道上る一番町107	7/20	表土直下で時期不明の溝状遺構を検出。	17
右兵衛府	上・下立売通御前東入西東町359	7/24	GL-0.6mの地山面で時期不明の柱穴1基	18
中務省	上・丸太町通千本東入中務町491	8/07	GL-0.2mで平安時代の遺物包含層を検出。発掘調査を指導する。	19
左兵衛府・聚楽第跡	上・日暮通下立売上天秤町590	10/28	GL-0.8mで北へ向かっての落込み状遺構を検出する。	20

平安京右京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
一条二坊二町	上・上ノ下立売御前通西入大宮町478	6/03	近世の土取り穴。	21
二条大路	中・西ノ京東中合町2	9/21	GL-1.23m以下, 流路状堆積。	22
四条一坊十二町	中・壬生森町29	4/17	GL-0.8~0.9mで地山。GL-0.85mで近世の東西溝を検出。	23

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
四条二坊十三町	右・西院巽町38-1他	9/24	GL-1.08mで平安時代の遺物包含層, GL-1.2mで道祖大路東側溝(内溝)を検出。発掘調査を指導する。	24
五条二坊十四町	右・西院西平町19-1	9/28	GL-0.8m以下, 砂礫層の堆積。	25
六条二坊十二町	右・西院中水町21-1, 22-1	6/05	GL-1.0mで推定野寺小路東側溝を検出。	26
六条三坊十五町	右・西院久保町20	11/10	GL-0.7m以下, 湿地状堆積。	27
八条一坊十二町	下・梅小路頭町6他	4/14	GL-0.94mで砂礫層。平安時代の南北溝を検出。本文4ページ。	28
九条一坊十五町	南・唐橋門脇町28	10/05	GL-0.95mで遺物包含層, 地山は青灰色粗砂で時期不明の土壌1基, 柱穴2基を検出。	29
九条二坊十五町	南・吉祥院西ノ庄門口町14	7/06	GL-0.78-0.95m以下, 桂川氾濫堆積。	30
九条三坊十三町	南・吉祥院中河原里南町18-1.2	5/29	桂川の氾濫堆積。	31
九条四坊六町	南・吉祥院中河原里北町3他	11/24	GL-0.69m以下, 氾濫堆積。	32

平安京左京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
二条三坊九町	上・烏丸通丸太町上る春日町424-1	7/22	検出遺構なし。	33
三条三坊十四町	中・烏丸御池東入梅屋町358	4/20, 10/12	GL-1.1m以下, 近世~中世にかけての遺物包含層が良好に残存し, 井戸状遺構を数基検出する。発掘調査を指導する。	34
四条四坊四町	中・錦小路東洞院東入西魚屋町	4/24	GL-0.9~0.96mで室町時代の遺物包含層。GL-1.11~1.33mで室町時代の土壌7基, 時期不明の土壌・柱穴各1基を検出。	35
八条三坊三町	下・東塩小路町無番地	7/27.28	1T: GL-2.61mで室町時代の土壌2基・井戸1基, 平安時代の井戸1基を検出。3T: GL-1.9mで中世の遺物包含層。4T: GL-1.75mで中世の遺物包含層。5T: GL-2.25mで平安後期の遺物包含層。発掘調査を指導する。本文16ページ。	36
八条三坊 六・十一町	下・烏丸通塩小路下る塩小路町	9/9.11.30	5箇所にとレンチを設定。GL-2.6~2.9m以下, 中世から平安時代の遺物包含層を検出。平安時代の井戸1基検出。発掘調査を指導する。本文20ページ。	37
八条三坊九・十町	下・烏丸通七条下る東塩小路702	12/21	GL-1m以下, 塩小路路面・推定塩小路北側溝を検出。発掘調査を指導する。	38

太秦地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
史跡名勝嵐山	右・嵯峨天龍寺芒ノ馬場町3-25他	8/10	GL-0.4mで室町時代の遺物包含層。GL-0.7mで柱穴群を検出。	39
広隆寺旧境内	右・太秦蜂岡町36-4	10/26	検出遺構なし。	40
仁和寺子院跡	右・常盤古御所町9-1他	12/14	検出遺構なし。	41

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
北野遺跡	北・小松原南町33	4/15	GL-0.4mで平安時代の遺物包含層。GL-0.5mで地山。GL-0.4mで近世の南北溝。	42

洛北地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
植物園北遺跡	左・下鴨南野々神町1	5/11	検出遺構なし。	43
植物園北遺跡	北・上賀茂岩ヶ垣内町1,1-5	6/10	検出遺構なし。	44
植物園北遺跡	北・上賀茂畔勝町97-3他	10/16	検出遺構なし。	45
植物園北遺跡	左・下鴨半木町	11/25	時期不明の溝・土壌・土壌状遺構各1を検出。	46

北白川地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
法勝寺跡	左・岡崎法勝寺町 岡崎公園内	4/27, 5/25	GL-0.73~0.8mで法勝寺に関連する東西溝と土壌状遺構を検出。設計変更を指導する。本文24ページ。	47
名勝平安神宮神苑	左・聖護院円頓美町他	8/03	GL-0.7mで室町時代の流路を検出。	48
史跡聖護院 旧仮皇居	左・聖護院中町15	9/16	GL-0.9mで室町時代の遺物包含層。GL-1.0mで中世の溝・土壌を検出。	49
一乗寺向畑町遺跡	左・一乗寺向畑町43他	10/2	砂と耕土の互層堆積。	50

洛東地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
六波羅政庁跡	東・松原通大和大路東入弓矢町72	6/08	1T: GL-1.2m以下, 室町時代の池状遺構。 2T: GL-1.0mで平安時代後期の土壌1基。	51
珍皇寺旧境内	東・松原通大和大路東入3丁目興善町140-3,141-3	7/08	GL-1.68mで鎌倉時代の整地層。	52
珍皇寺旧境内	東・広道通松原上る2丁目玉水町75-1他	11/4	GL-2.32mまで土取り穴。	53

伏見・醍醐地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
伏見城跡	伏・片原町300	5/19	GL-2.66m以下, 池状堆積。	54
伏見城跡	伏・本材木町669,丹後町718-1,726	6/01	GL-1.85mで近世末の遺物包含層。	55
伏見城跡	伏・桃山最上町37-1他	11/30	GL-0.73mで桃山時代の土壌2基を検出。本文28ページ。	56
深草遺跡	伏・深草綿森町29	8/28	GL-0.94mで時期不明の流路を検出。	57
史跡随心院境内	山・小野御霊町3-1	8/26	検出遺構なし。	58

鳥羽地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
鳥羽離宮跡	伏・中島北ノ口町10-3	4/13	GL-1.5~1.7mで池状堆積。	59
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町105-10	9/18	GL-1.16m以下、池状堆積。	60
下鳥羽遺跡	伏・北端町12-1	5/07	GL-1.05mで奈良時代の遺物包含層。GL-1.2mで古墳時代の竪穴住居状遺構を検出。設計変更を指導する。	61
下鳥羽遺跡	伏・竹田露川町9-2	9/07	GL-1.3m以下、湿地状堆積。	62

南・桂地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
上久世遺跡	南・久世上久世町341,342	4/23	検出遺構なし。	63
上久世遺跡	南・久世上久世町256他	10/15	検出遺構なし。	64
中久世遺跡	南・久世殿城町35-3	5/13	GL-1.0~1.07m以下、奈良~弥生時代の湿地状堆積。	65
中久世遺跡	南・久世殿城町442-1他	10/19	GL-1.22mで弥生時代の溝?を検出。	66
中久世遺跡	南・久世中久世町4丁目77-1	12/24	GL-0.4mで古墳時代から8世紀代の溝4条を検出する。本文30ページ。	67
福西古墳群	西・大枝東長町1-205	9/02	GL-0.2mで古墳石室の一部を検出。設計変更を指導する。本文34ページ。	68
福西古墳群	西・大枝東長町1-212	12/02	1T:GL-1.18m以下、小畑川の氾濫堆積。 2・3T:検出できず。	69

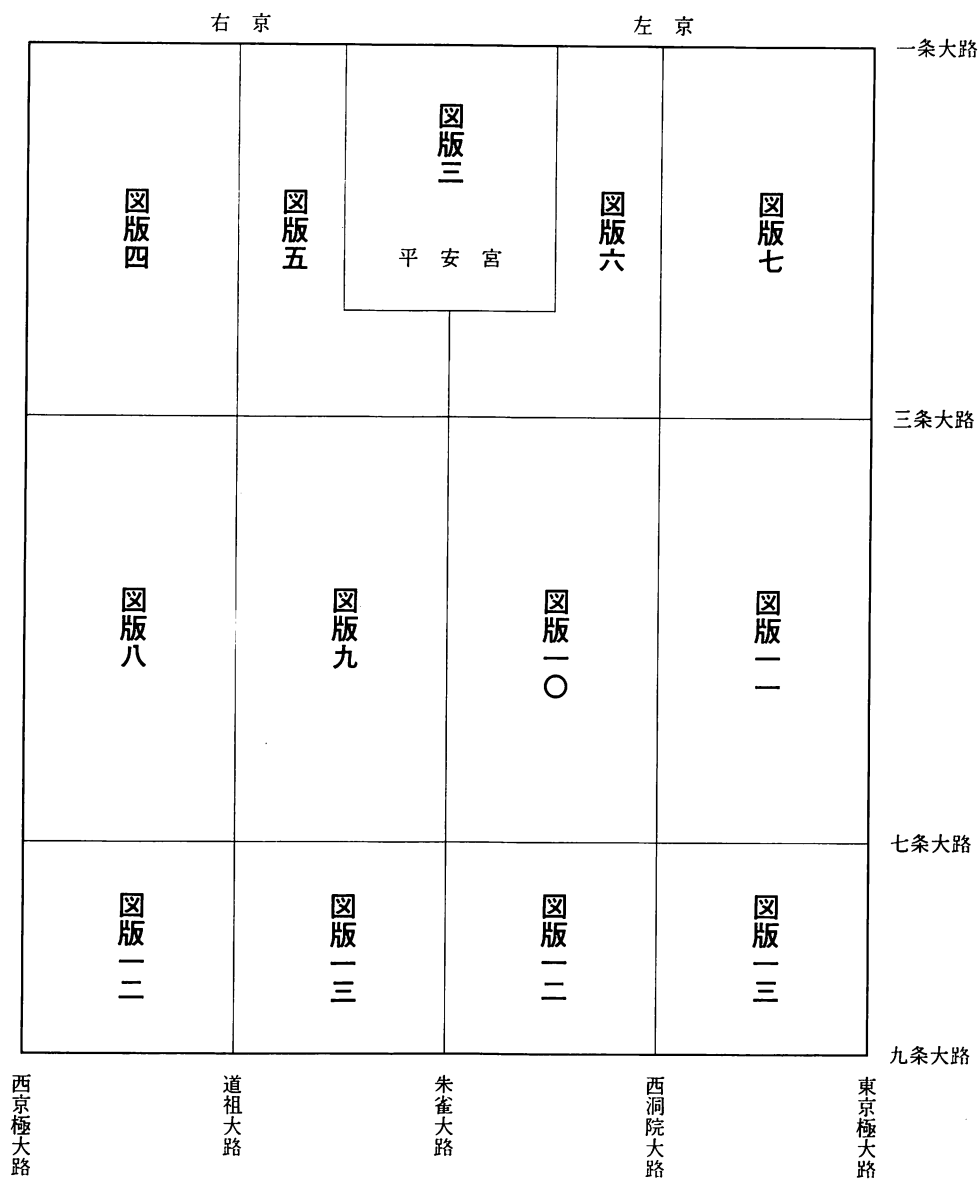
長岡京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
長岡京跡	南・久世東土川町126-2,3,4	6/19	検出遺構なし。	70
長岡京跡	伏・羽東師志水町177-1,178-1	6/15	GL-0.9~1.1mで長岡京期の小土壇1基。	71
長岡京跡	伏・羽東師菱川町211-1他	10/21	GL-0.81mで長岡京期の遺構面を確認。設計変更を指導する。本文36ページ。	72
長岡京跡	伏・羽東師菱川町339	10/23	GL-1.0mで中世の溝3条、長岡京期の柱穴5基・溝2条、古墳時代の竪穴住居状遺構3基検出。本文38ページ。	73
長岡京跡	伏・羽東師菱川町286	10/30	GL-0.8~0.9mで長岡京期の南北溝4条検出。	74
長岡京跡	伏・羽東師古川町427-1	12/16	検出遺構なし。	75
長岡京跡	伏・久我西出町3-10他	11/26	時期不明の土壇・柱穴各1を検出。	76

圖 版

調査地点位置図

平安京図葉分割図



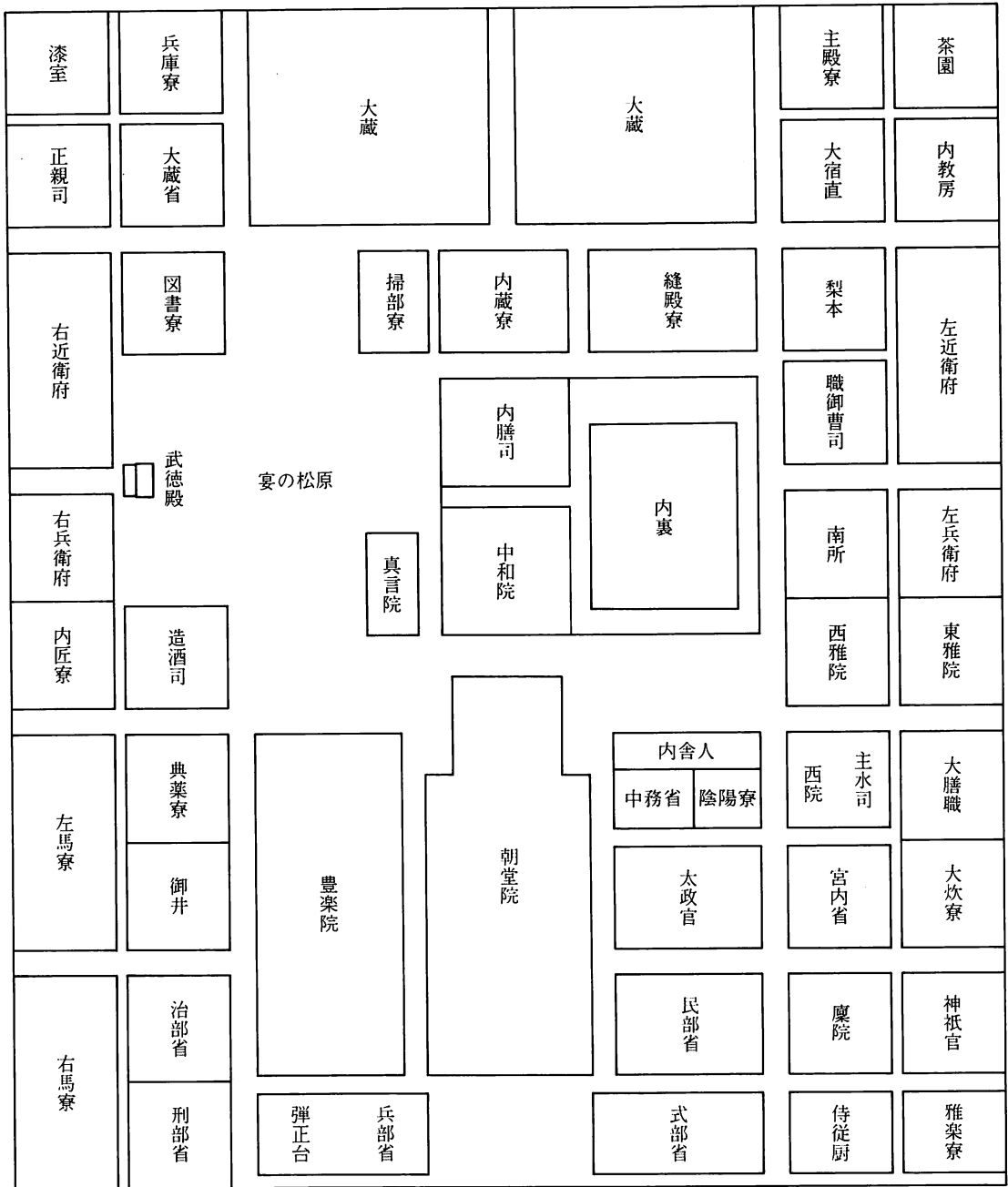
凡例

平成4年試掘調査地点

□ 1月～3月

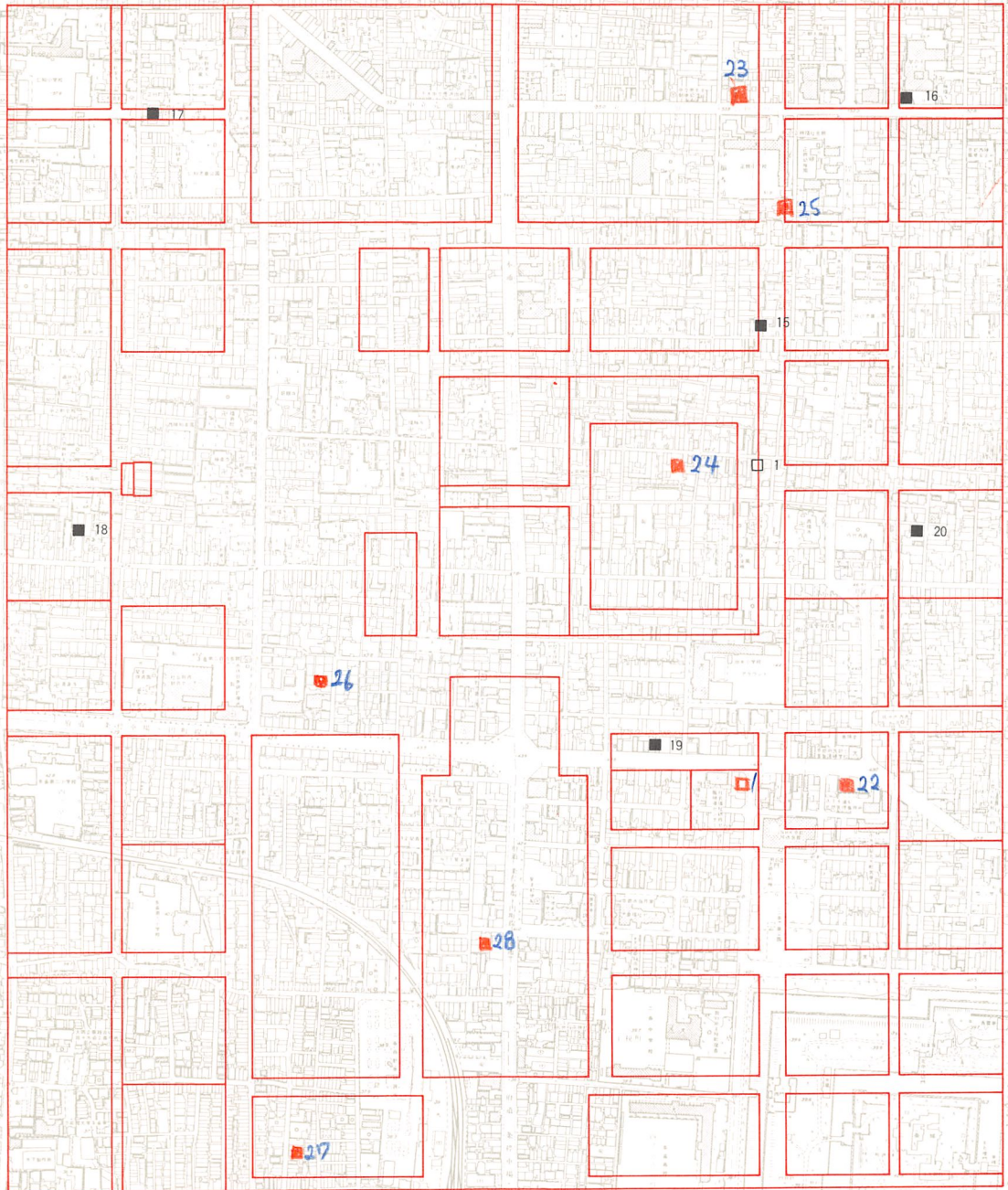
■ 4月～12月

----- 遺跡範囲

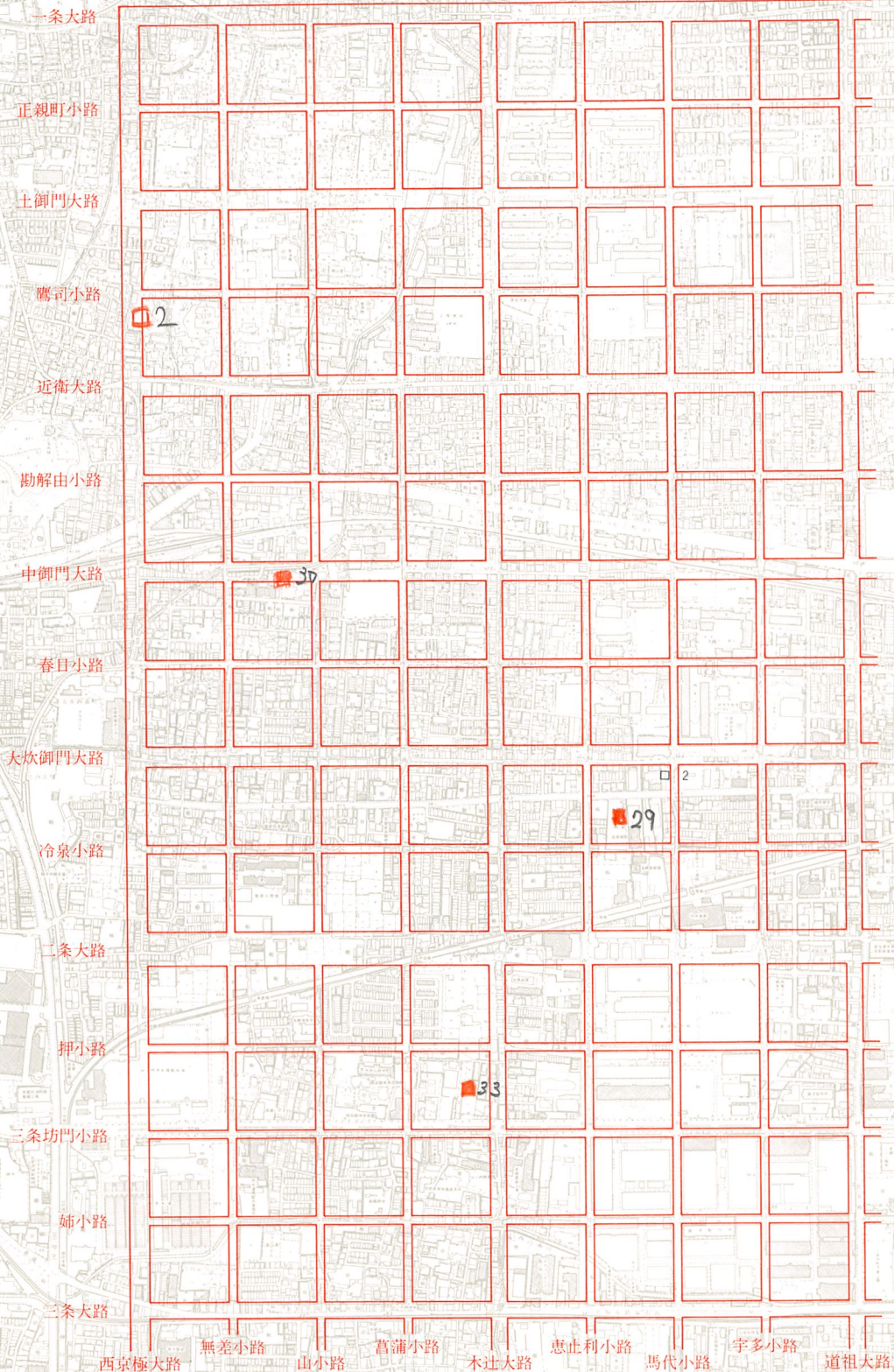


平安宮域概念図

平安宮



右京 北辺・一・三、三条 三・四坊



右京 北辺 一・二・三条 一・二坊

一条大路

正親町小路

土御門大路

鷹司小路

近衛大路

勘解由小路

中御門大路

春日小路

大炊御門大路

冷泉小路

21

22

二条大路

押小路

三条坊門小路

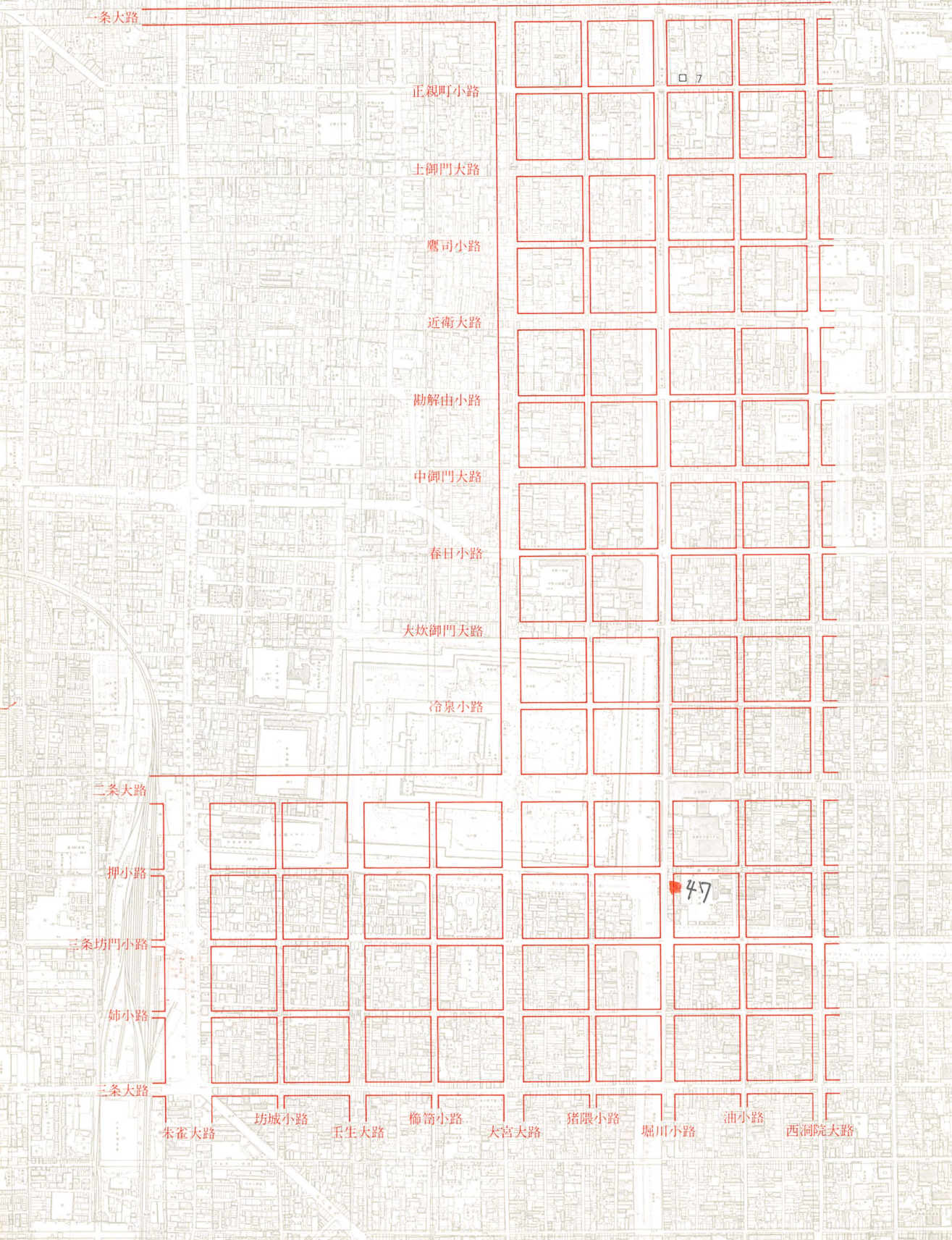
姉小路

二条大路

32

31

道祖大路 野寺小路 西堀川小路 西鞆負小路 西大宮大路 西櫛笥小路 皇嘉門大路 西坊城小路 朱雀大路



一条大路

正親町小路

土御門大路

鷹司小路

近衛大路

勘解由小路

中御門大路

春日小路

大炊御門大路

冷泉小路

一条大路

押小路

三条坊門小路

姉小路

三条大路

朱雀大路

坊城小路

壬生大路

柳筋小路

大宮大路

猪隈小路

堀川小路

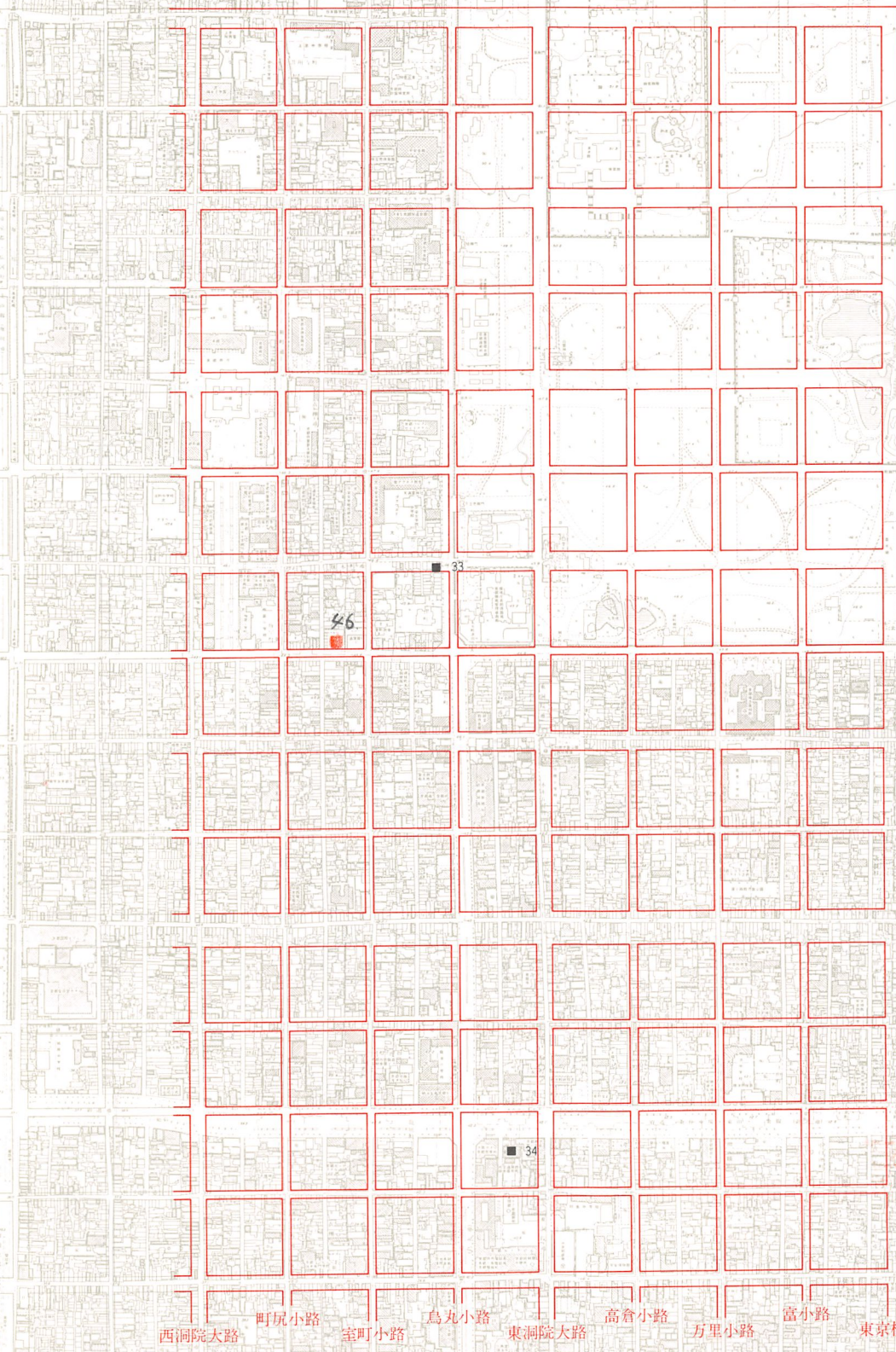
油小路

西洞院大路

47

7

左京北辺・一・二・三条 三・四坊



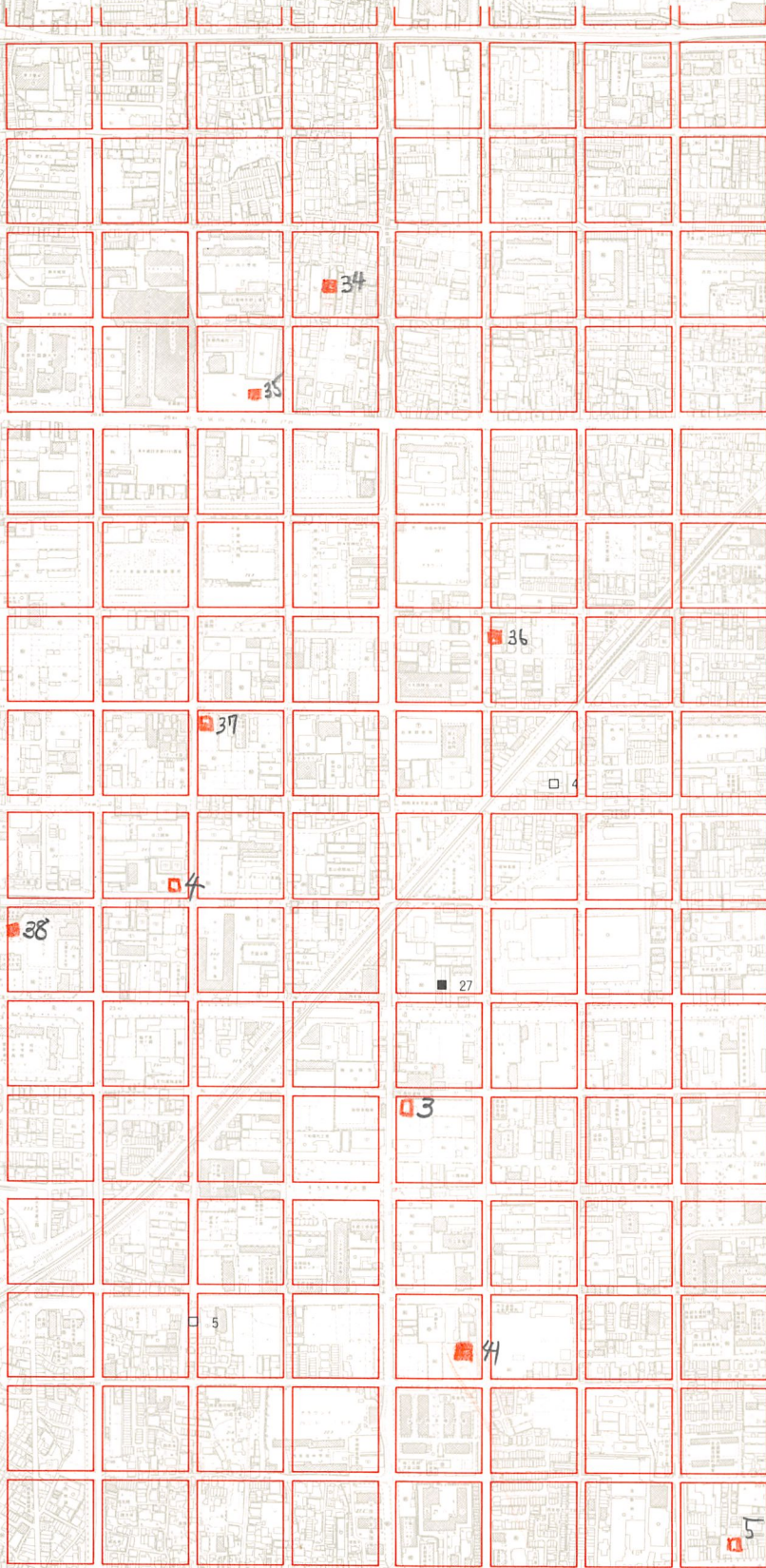
一条大路
 正親町小路
 土御門大路
 鷹司小路
 近衛小路
 勘解由小路
 中御門大路
 春日小路
 大炊御門大路
 冷泉小路
 二条大路
 押小路
 三条坊門小路
 8
 三条大路
 三条大路

西洞院大路 町尻小路 室町小路 烏丸小路 東洞院大路 高倉小路 万里小路 富小路 東京極大路

右京 四・五・六・七条 三・四坊

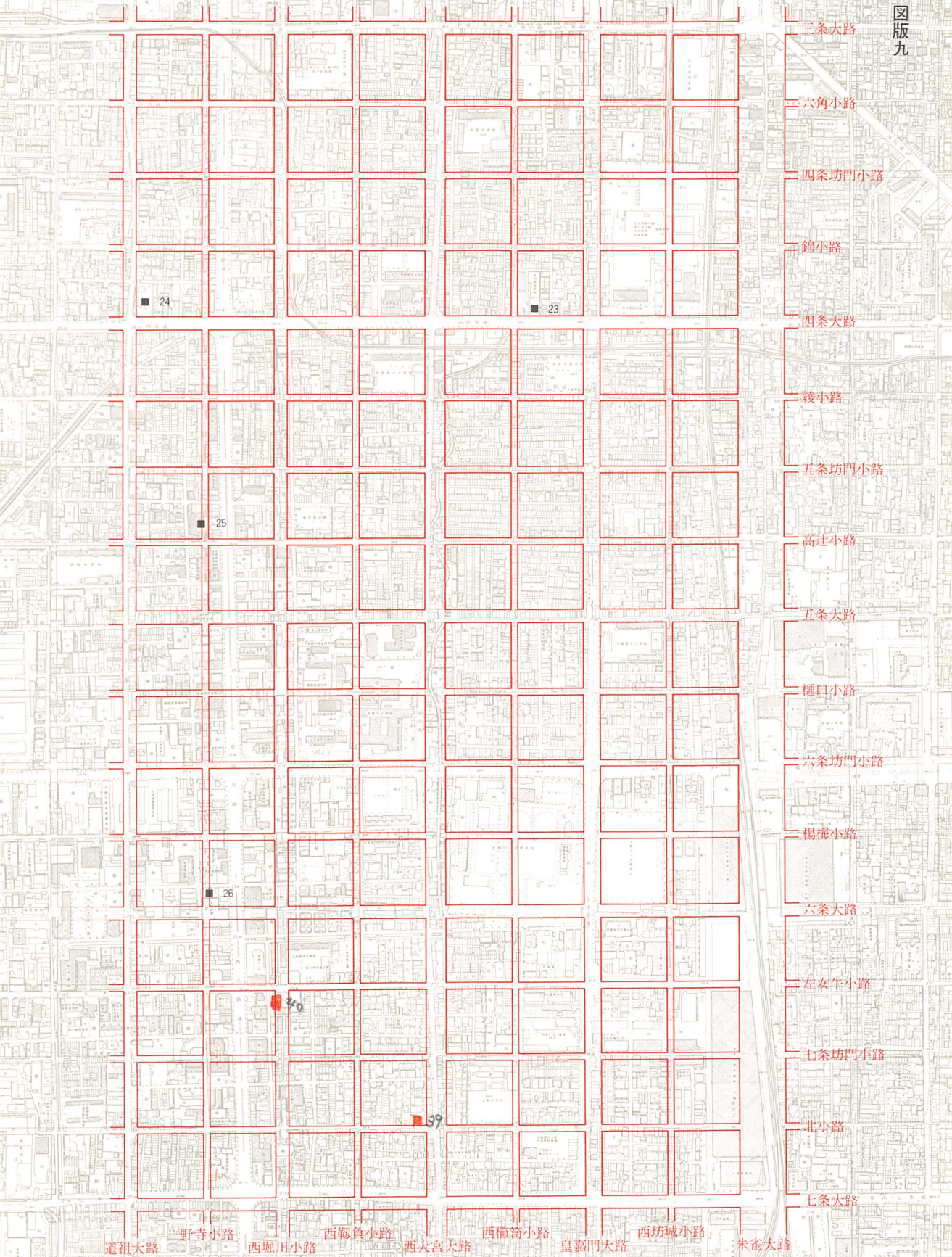
図版八

三条大路
六角小路
四条坊門小路
錦小路
四條大路
綾小路
五条坊門小路
高辻小路
五条大路
樋口小路
六条坊門小路
楊梅小路
六条大路
左女牛小路
七条坊門小路
北小路
七条大路



西京極大路 無差小路 山小路 菖蒲小路 木辻大路 惠止利小路 馬代小路 宇多小路 道祖大路

右京 四・五・六・七条 一・二坊



左京・四・五・六・七条 一・二坊

図版 一〇

三条大路

六角小路

四条坊門小路

錦小路

四条大路

綾小路

五条坊門小路

高辻小路

五条大路

樋口小路

六条坊門小路

楊梅小路

六条大路

左女半小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

朱雀大路

坊城小路

壬生大路

櫛笥小路

大宮大路

猪熊小路

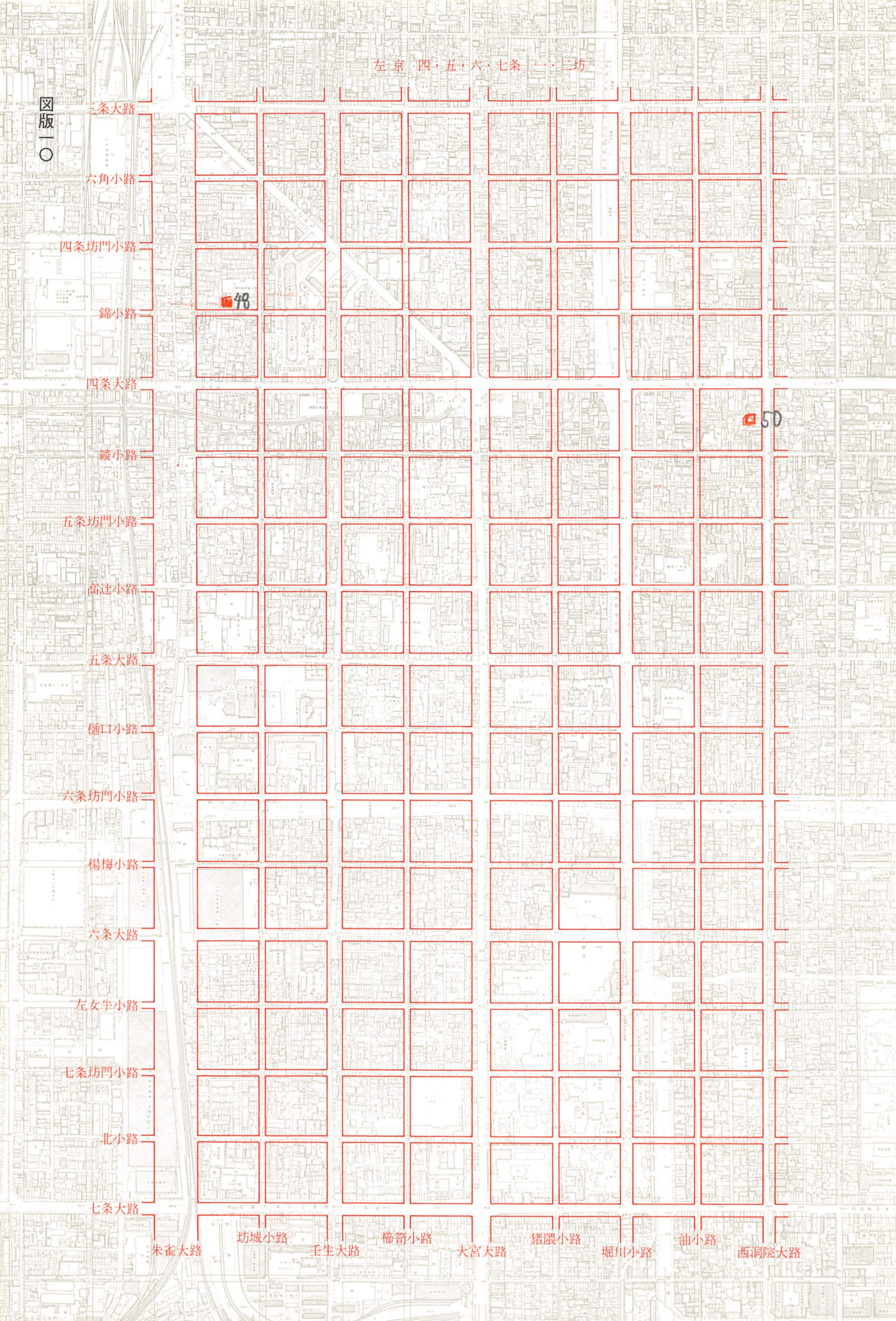
堀川小路

油小路

西洞院大路

48

50



左京 四・五・六・七条 三・四坊

三条大路

六角小路

四条坊門小路

錦小路

四条大路

綾小路

五条坊門小路

高辻小路

五条大路

樋口小路

六条坊門小路

楊梅小路

六条大路

左女半小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

49

35

西洞院大路

町尻小路

室町小路

烏丸小路

東洞院大路

高倉小路

万里小路

富小路

東京極大路

右京 八・九条 三・四坊

図版 二二

七条大路

堀小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

西京極大路

無差小路

山小路

葛蒲小路

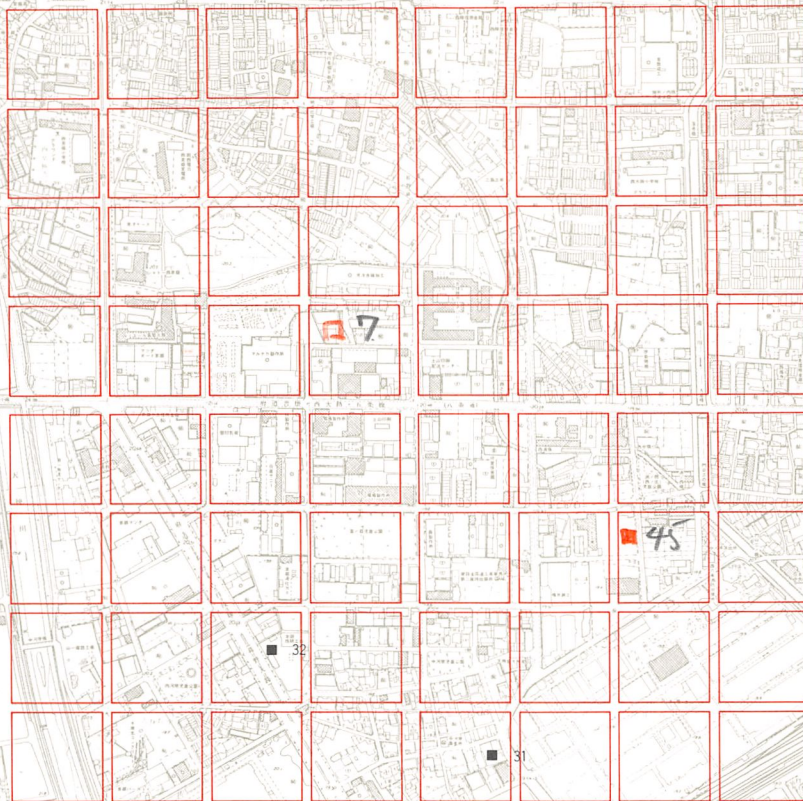
本辻大路

恵止利小路

馬代小路

宇多小路

道祖大路



左京 八・九条 一・二坊

七条大路

堀小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

朱雀大路

坊城小路

壬生大路

櫛笥小路

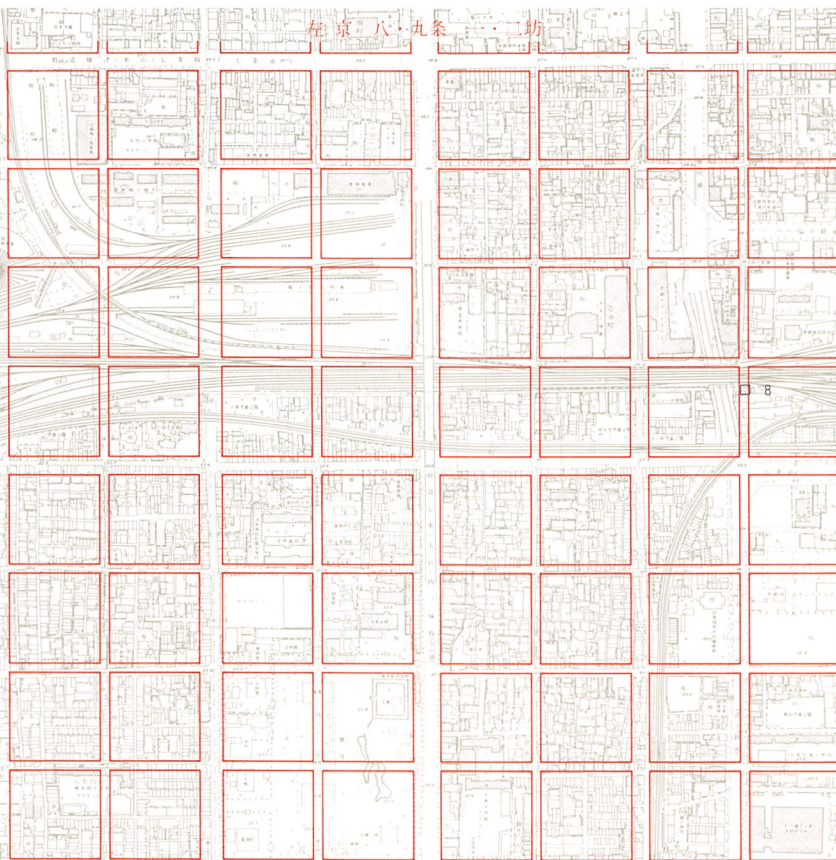
大宮大路

猪鬣小路

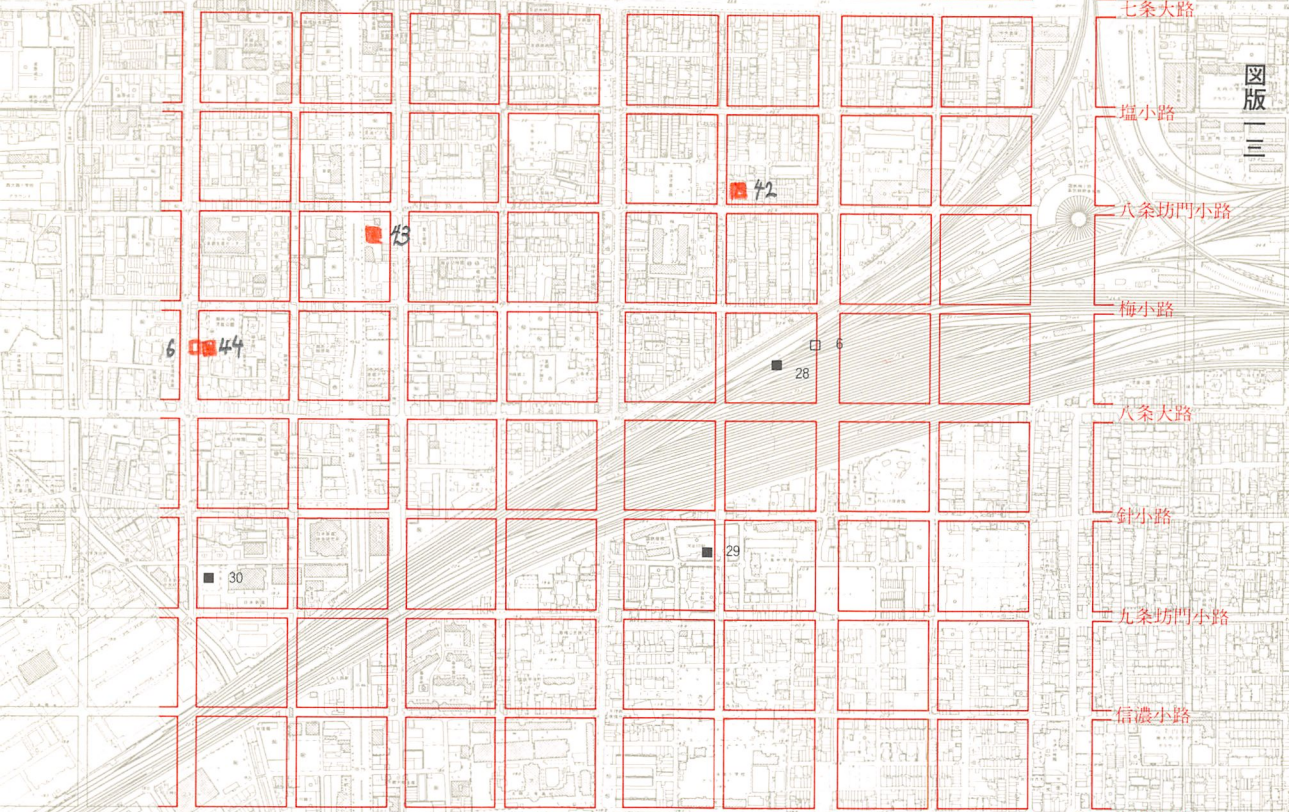
堀川小路

油小路

西洞院大路

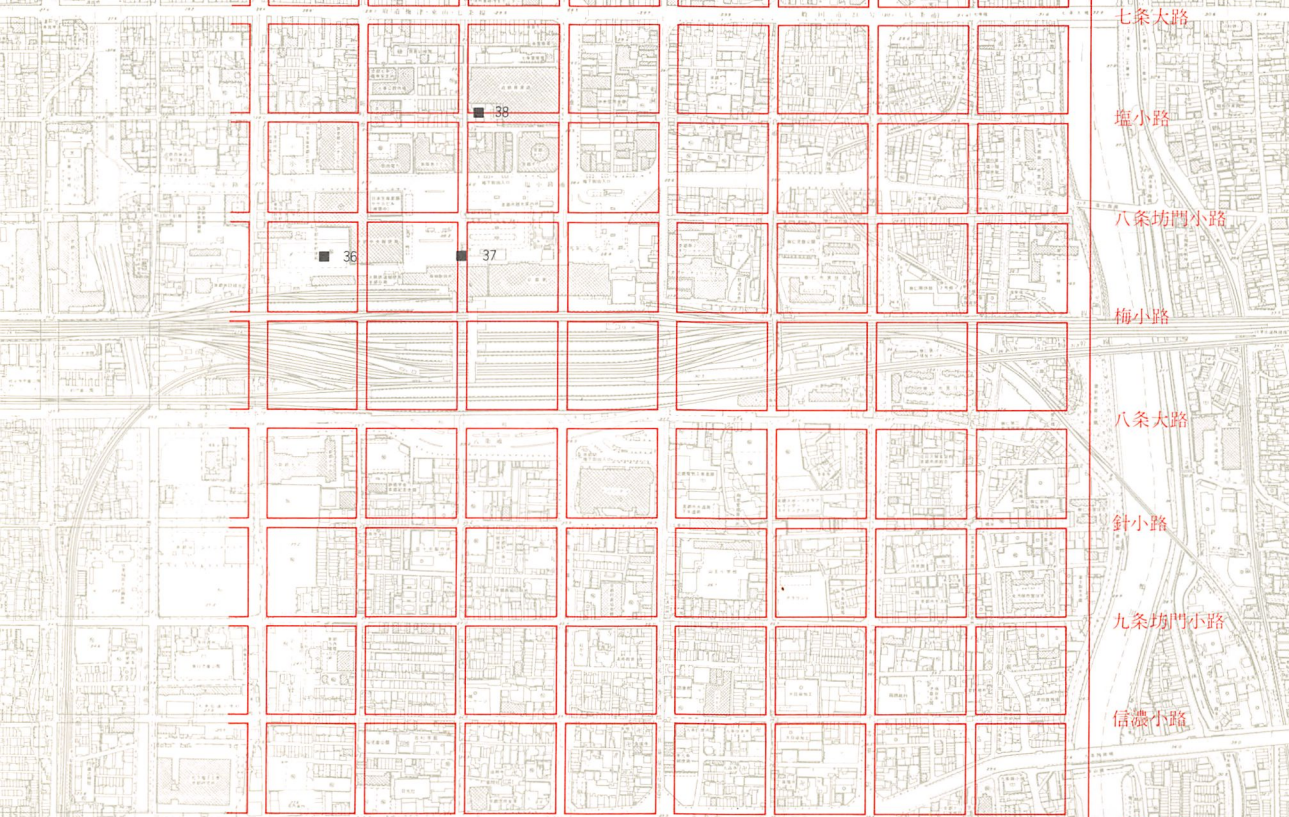


右京 八・九条 一・二坊

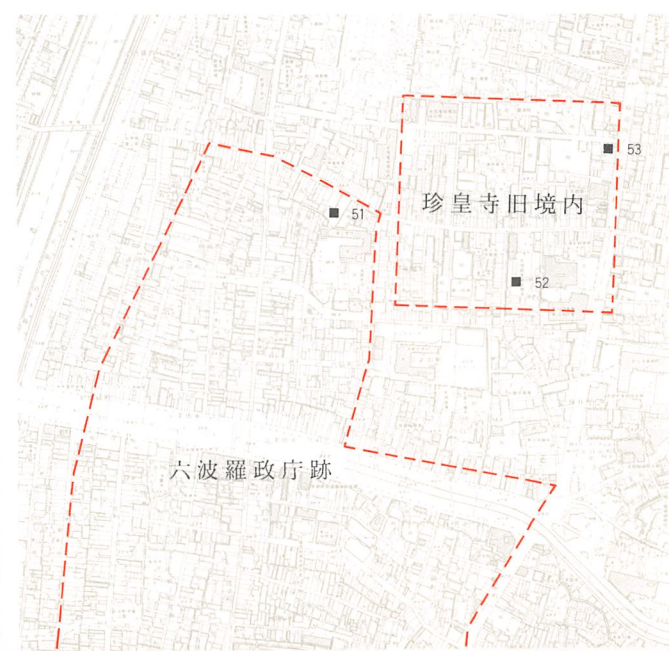
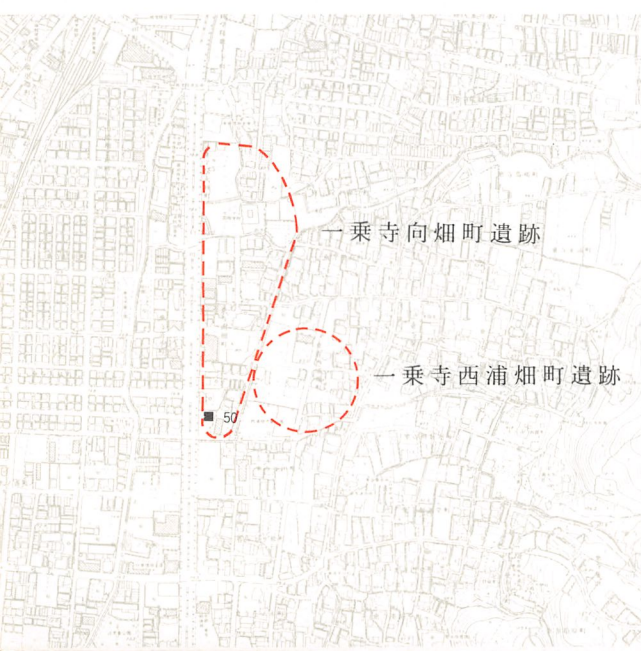
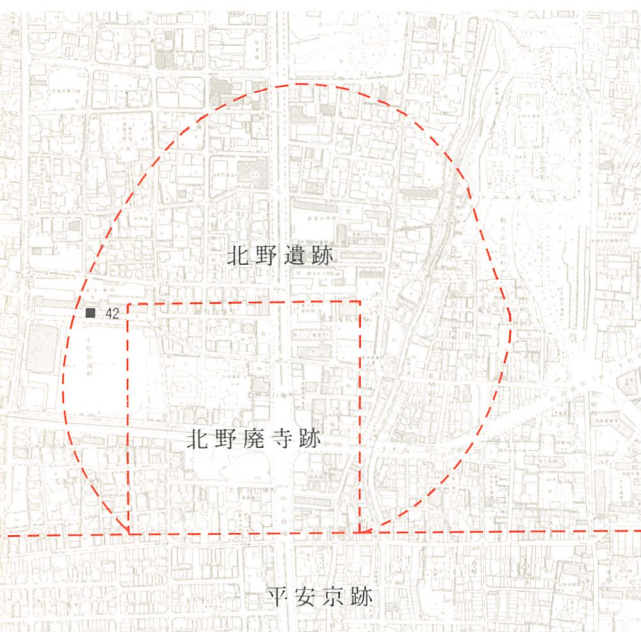
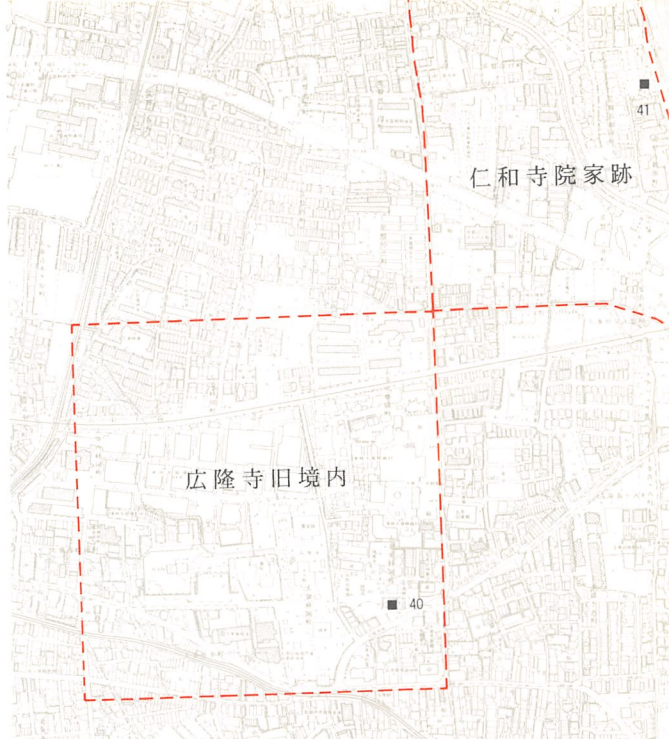


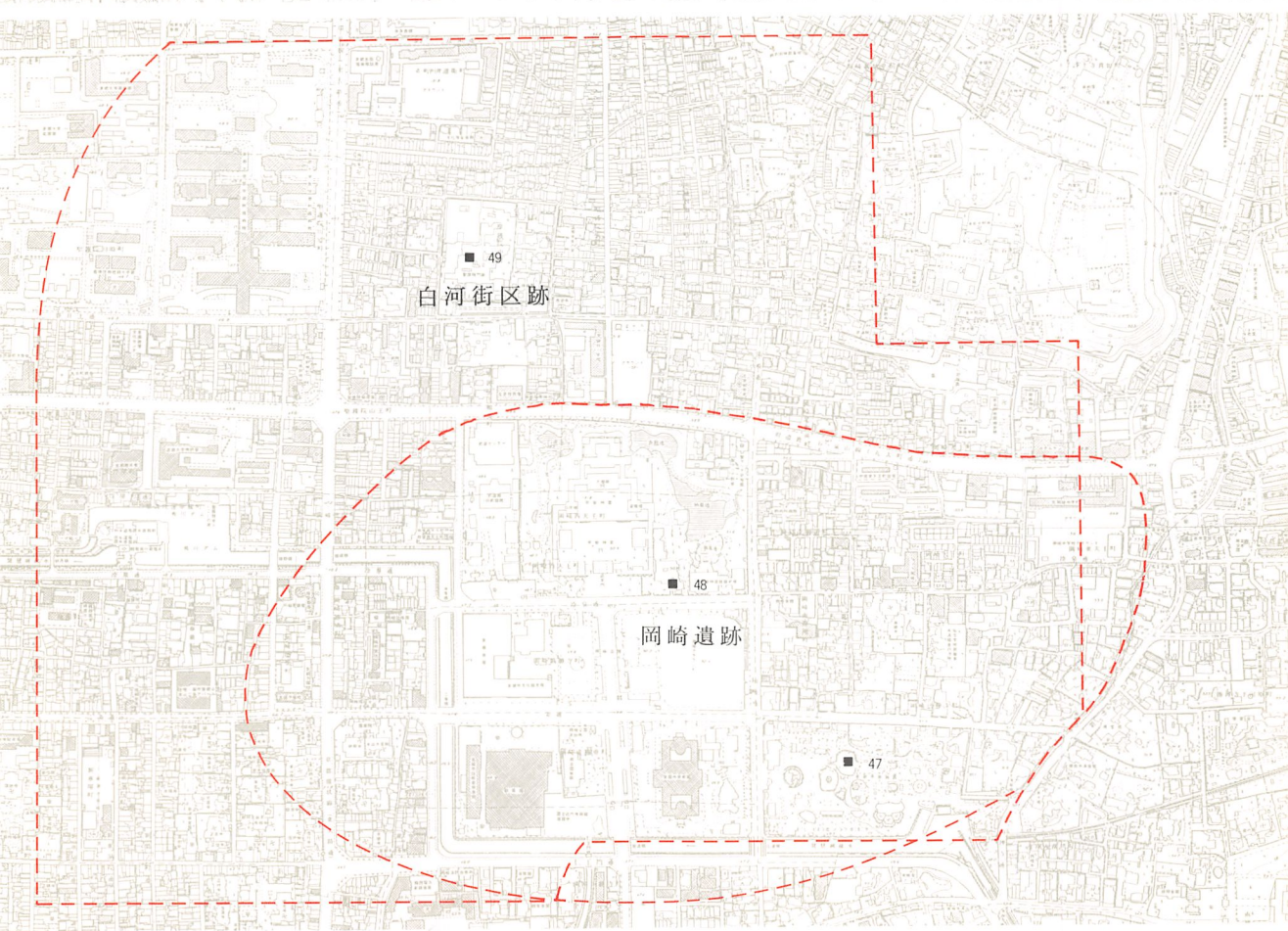
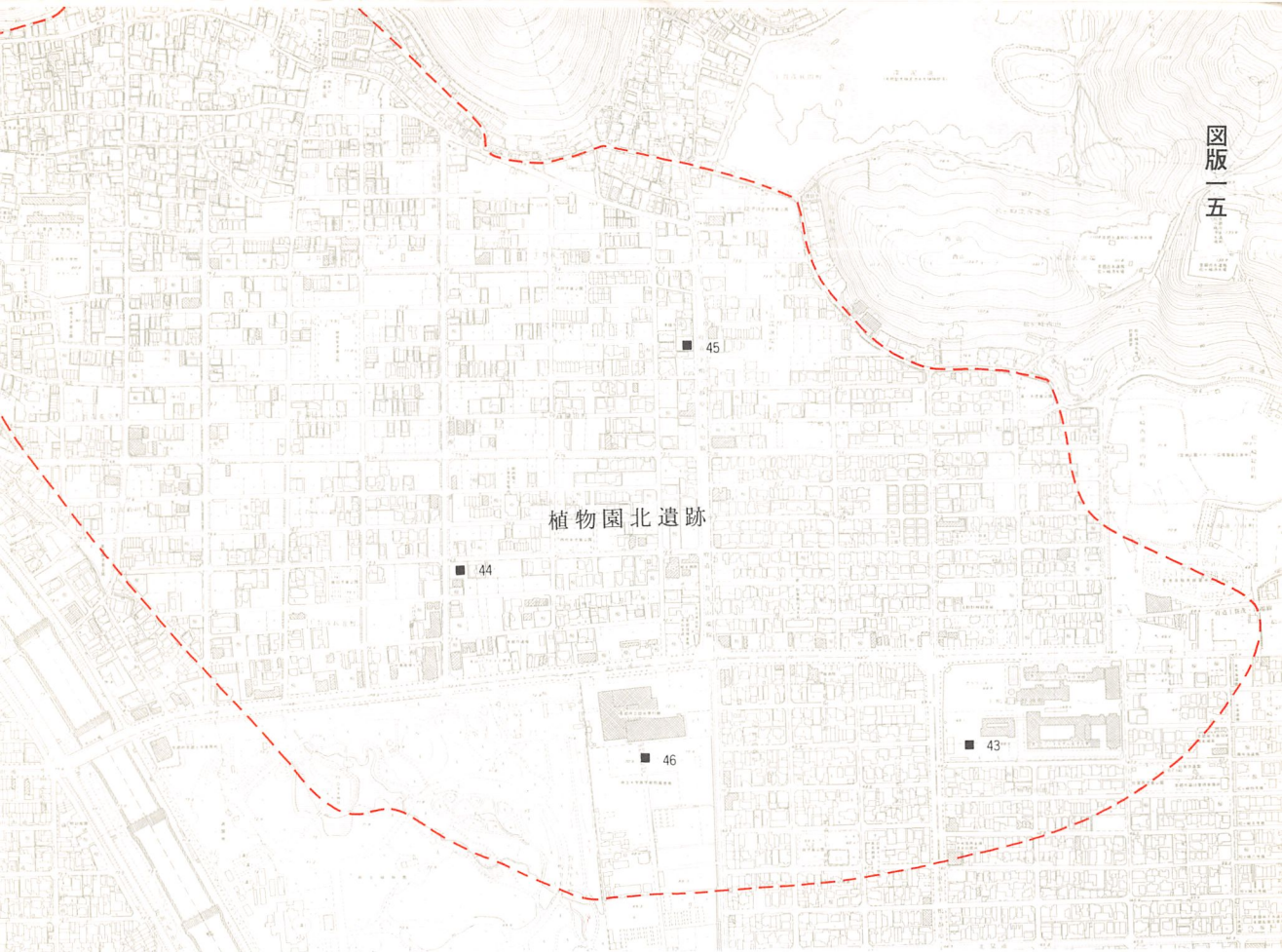
道祖大路 野寺小路 西堀川小路 西靱負小路 西大宮大路 西櫛笥小路 皇露門大路 西坊城小路 朱雀大路

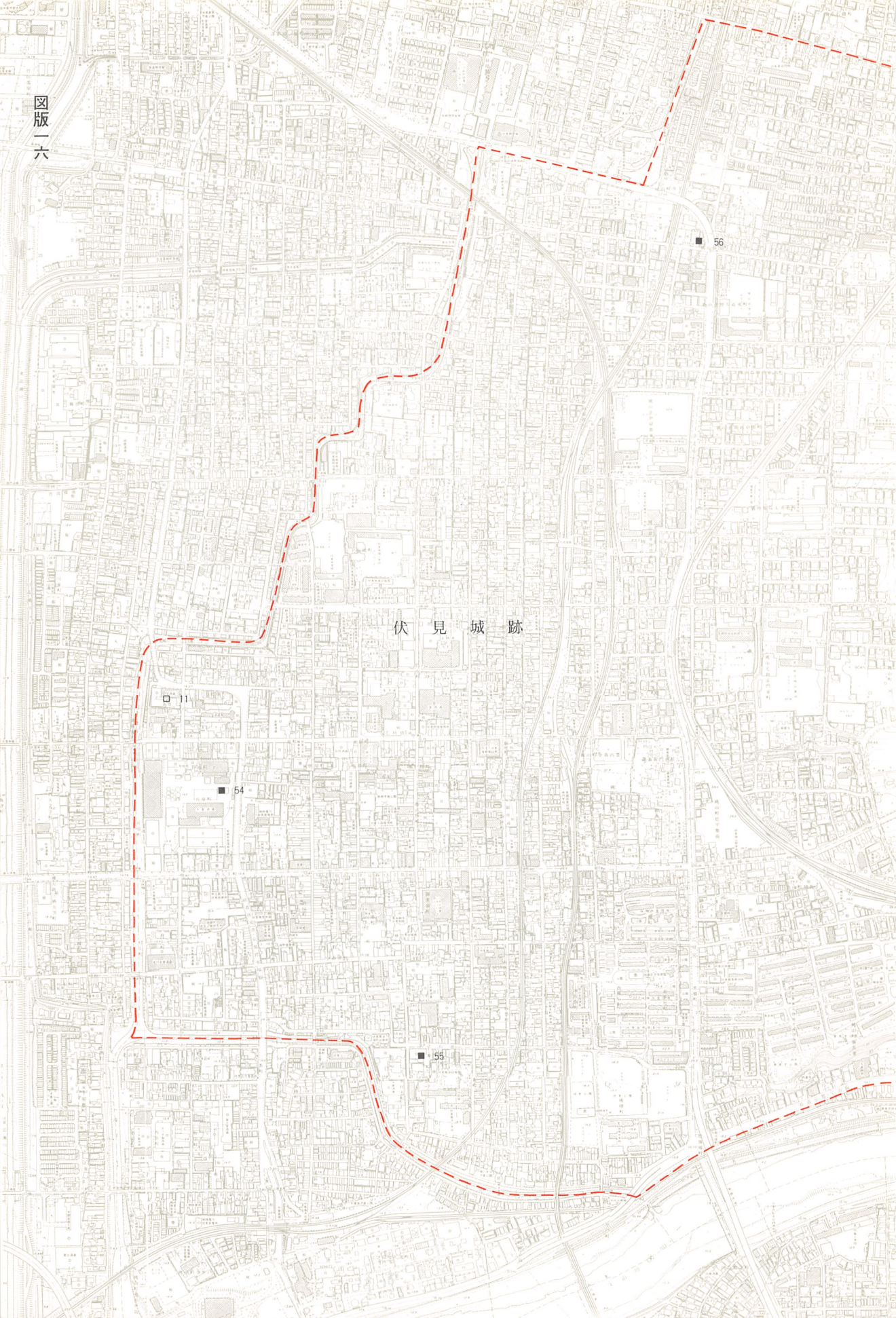
左京 八・九条 三・四坊



西洞院大路 町尻小路 室町小路 烏丸小路 東洞院大路 高倉小路 万里小路 富小路 東京極大路







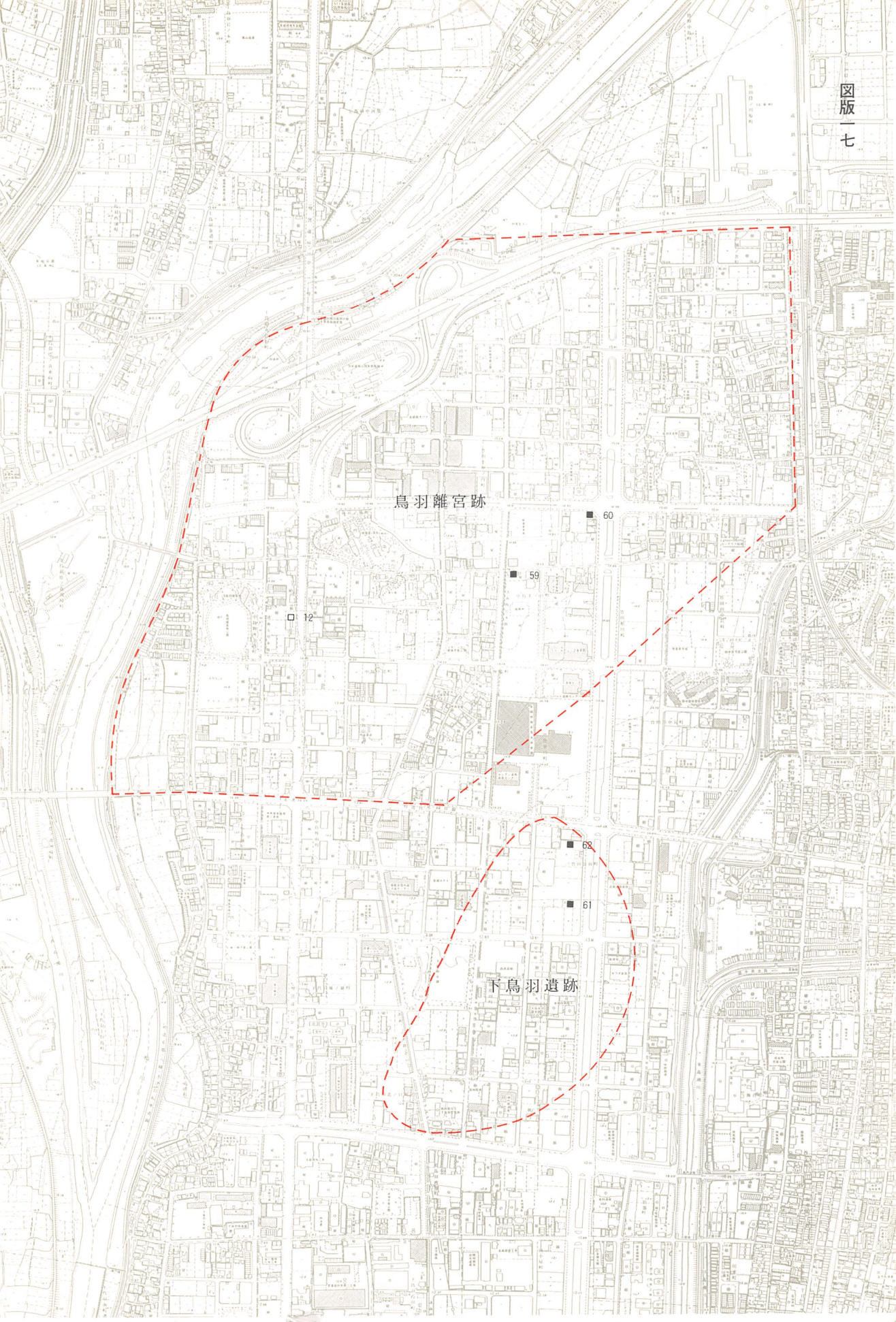
伏見城跡

□ 11

■ 54

■ 55

■ 56



鳥羽離宮跡

12

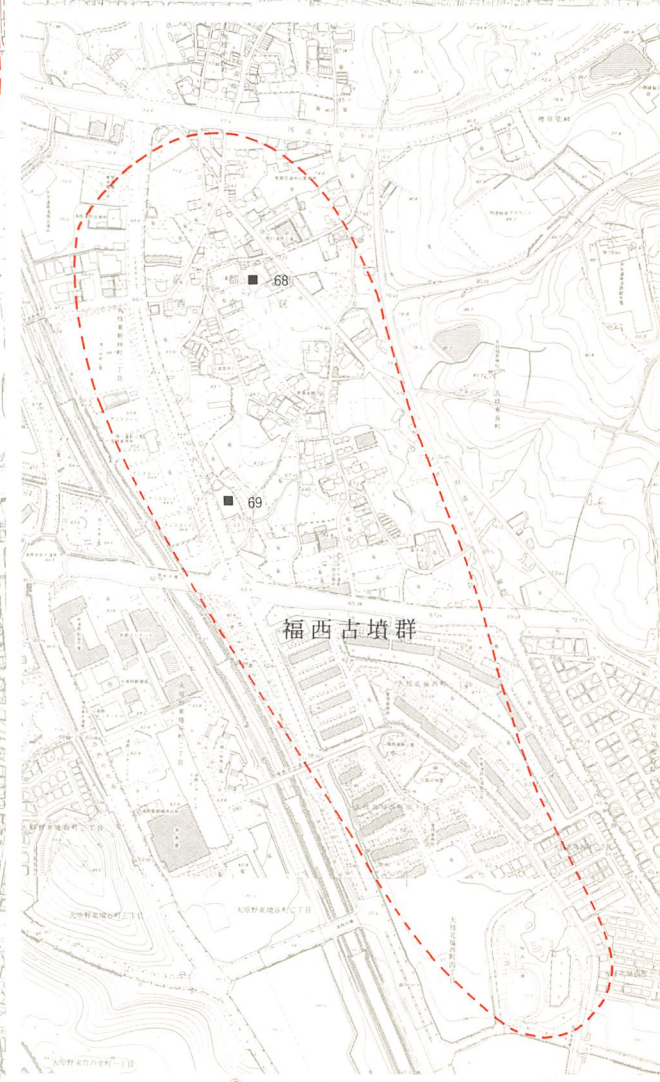
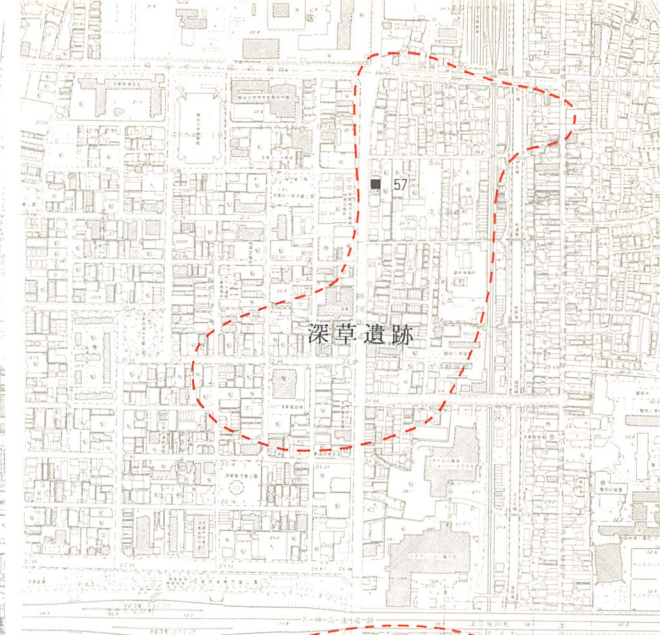
59

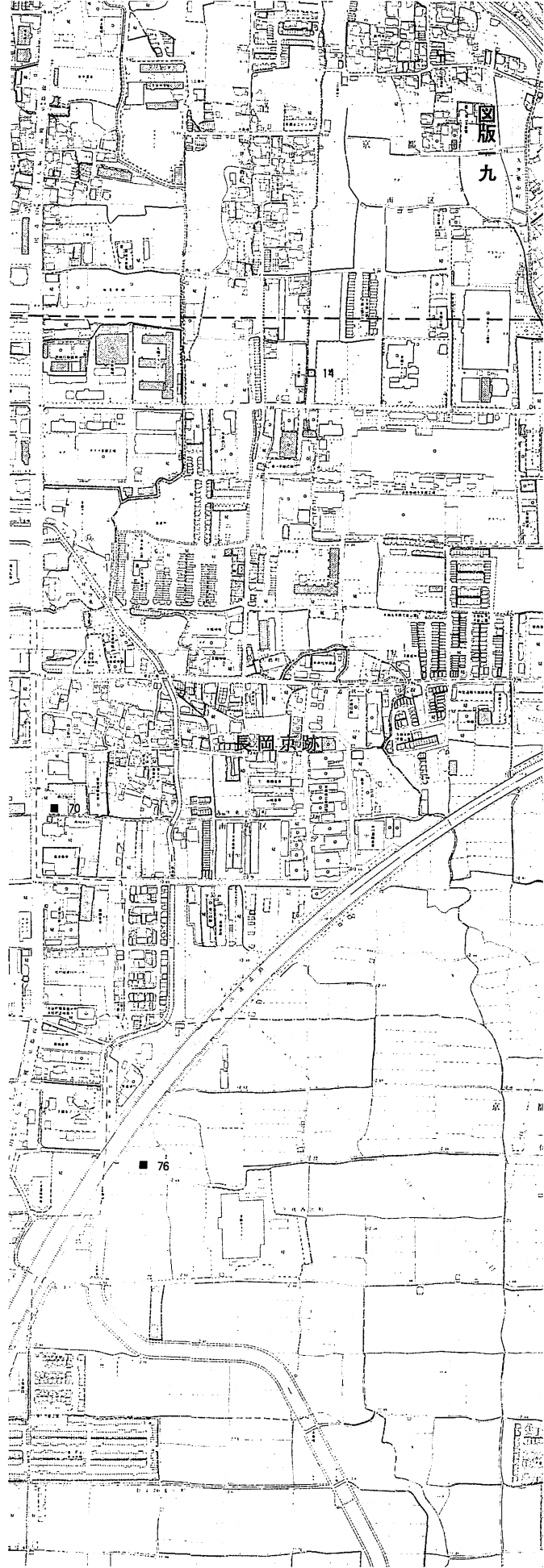
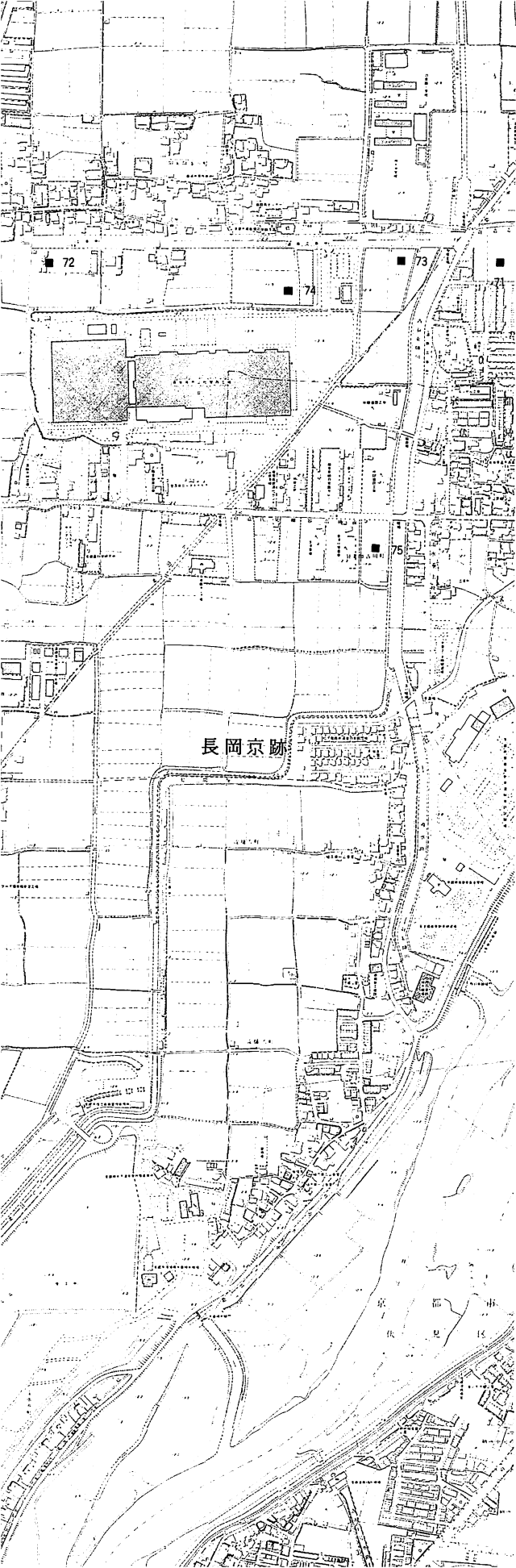
60

下鳥羽遺跡

62

61





京都市内遺跡試掘調査概報

平成4年度

発行日 平成5年3月31日

発行 京都市文化観光局

編集 京都市埋蔵文化財調査センター

住所 京都市上京区今出川大宮東入元伊佐町265-1

TEL (075) 441-5261

印刷 真陽社